

いわての観光統計

「観光入込客統計に関する共通基準」
に基づく統計量推計結果
(平成24年4月～6月)



岩手県PRキャラクター「わんこきょうだい」

平成24年10月

岩手県 商工労働観光部 観光課

目 次

第1部:「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく統計

1. 調査概要	1
(1) 調査対象期間	1
(2) 共通基準について	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査体系	2
(5) 集計対象(範囲)	2
(6) 用語の定義	3
(7) その他	4
2. 調査結果	5
(1) 調査対象地点数	5
(2) 観光地点等入込客数(延べ人数)	5
(3) 観光入込客数(実人数)	11
(4) 観光消費額	13

第2部:観光地点パラメータ調査結果から見る観光客の動向分析

1. 調査概要	17
2. 観光客の動向分析	18
(1) 問1 住まいの地域	18
(2) 問2 性別・年代	19
(3) 問3 宿泊形態および宿泊数	20
(4) 問4 訪問の目的	22
(5) 問5 旅行人数、同行者のタイプ	22
(6) 問6 観光地訪問の認知、回数	23
(7) 問7 岩手県訪問の認知、回数(岩手県外の方のみ対象の設問)	23
(8) 問8 観光地への交通機関	24
(9) 問9 今回の旅行費用について	25

第1部 「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく統計

1. 調査概要

(1) 調査対象期間

平成24年4月1日～平成24年6月30日（第一四半期）

(2) 共通基準について

観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として制定された観光立国推進基本法（平成18年法律第117号）において、国は観光に関する統計の整備に必要な施策を講ずることとされている。

また、観光立国推進基本計画（平成19年6月29日閣議決定）において、「日帰り旅行者に関する統計等その他の観光旅行者に関する統計について、都道府県が行っている統計調査を踏まえつつ、地方公共団体が採用可能な共通基準を策定し、平成22年に共通基準での調査の実施を目指す」とされた。

共通基準は、都道府県における観光入込客に関する統計＝「観光入込客統計」について、把握する項目の定義、調査手法、推計方法等に関する基準を共通化し、都道府県が相互に比較可能な信頼性の高い統計を作成する目的で定めたものである。

(3) 調査方法

観光入込客統計は、以下に掲げる調査により、都道府県ごとの観光入込客数、観光消費額単価、観光消費額についての統計量を示すものである。

①観光地点等入込客数調査（全数調査）

都道府県内の観光地点及び行祭事・イベントに訪れた人数を、観光地点の管理者、行祭事・イベントの実施者等に四半期ごとに報告を求め調査するもの。

②観光地点パラメータ調査（サンプル調査）

都道府県内の観光地点を訪れた観光客を対象に、訪問地点数、観光消費額単価等について、四半期ごとに調査するもの。

③他の統計調査

上記①②を補完するため、国で承認された一般統計である宿泊旅行統計調査、旅行・観光消費動向調査等を活用する。

(4) 調査体系

本調査の実施単位は岩手県であるが、調査内容が多岐に渡ることから、岩手県及び県内の市町村が相互に連携・協力して実施しているものである。

市町村は選定した観光地点の管理者や行祭事・イベントの運営者に観光入込客数を確認し、岩手県は市町村からの報告結果をとりまとめるとともに、10 地点以上の観光地を選定し、観光地点パラメータ調査を実施した。

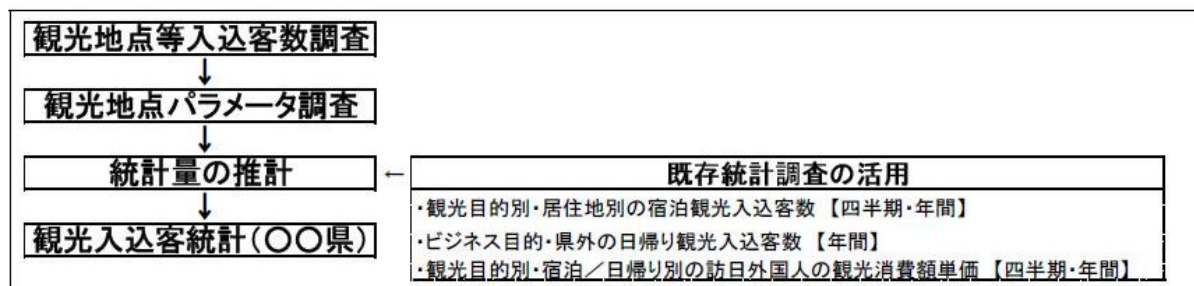


図1 観光入込客統計の調査体系

(5) 集計対象(範囲)

観光入込客統計で統計量を推計する対象となる観光地点は、以下の3つの要件を満たす観光地点となる。ただし、行祭事・イベントについては、②及び③の要件を満たすものを集計の対象として取り扱うものとする。

- ①非日常利用が多い(月1回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分未満)と判断される地点であること。ただし、「訪問する頻度が高い者=日常利用者である」とは言い切れない地点については、本要件を満たすものとして取り扱っても差し支えない。
- ②観光入込客数が適切に把握できる地点であること。
- ③観光入込客数が年間1万人以上、若しくは特定月の観光入込客数が5千人以上であること。

なお、上記の確認は、毎年1月1日現在で行うこととなっている。調査年の途中で、観光入込客数が上記の要件を満たすこととなった観光地点が新設された場合は、要件を満たすことになる四半期から名簿に追加することとする。

また、1度限りの大規模な行祭事・イベント等、前年の入込客数が把握できないものの、調査年の途中で観光入込客数が上記要件を満たすこととなった場合も、同様に名簿に追加することができる。

(6) 用語の定義

本報告に使われる用語の定義を以下に記す。

観光	余暇、ビジネス、その他の目的のため、日常生活圏を離れ、継続して1年を超えない期間の旅行をし、また滞在する人々の諸活動
ビジネス目的兼観光	旅行の主目的がビジネスである者が、観光地点を訪れることを意味する。
観光地点	観光・ビジネスの目的を問わず、観光客を集客する力のある施設又はツーリズム等の観光活動の拠点となる地点を意味し、日常的な利用、通過型の利用がほとんどを占めると考えられる地点は対象としない。
行祭事・イベント	行祭事とは、地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、恒例として日を定め執り行う歴史的催し・祭り、郷土芸能等の集合を意味し、イベントとは、常設又は特設の会場施設において行われる博覧会、見本市、コンベンション等を意味する。
観光入込客	日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない。観光地点及び行祭事・イベントを訪れた者を観光入込客とする。
訪日外国人客	観光入込客のうち、日本以外の国に居住し、観光地点及び行祭事・イベントを訪れた者
観光地点等入込客数	観光地点及び行祭事・イベントごとの観光入込客の総数
観光入込客数	都道府県の観光地点を訪れた観光入込客をカウントした値で、例えば、1人の観光入込客が当該都道府県内の複数の観光地点を訪れたとしても1人・回と数える。
訪問地点数	観光入込客1人の1回の旅行において、当該都道府県内で訪問した観光地点の数
観光消費額単価	観光入込客1人の1回の旅行における当該都道府県内での観光消費額
観光消費額	当該都道府県を訪れた観光入込客の消費の総額。観光入込客数と観光消費額単価を掛け合わせることで算出される。

(7) その他

①延べ人数と実人数について

観光入込客数の実人数とは1人の観光客が1回の旅行で複数の観光地を訪問した場合でも「1」と数えるもので、延べ人数の場合は1人の観光客が1回の旅行で複数の観光地を訪問した場合にその観光地の数だけ数える（例えば5箇所を訪問した場合は「5」と数える）ものである。

②調査エリアについて

調査対象となる岩手県内の4つの地域（県央エリア、県南エリア、沿岸エリア、県北エリア）は以下のとおり。



図2 調査エリア

2. 調査結果

(1) 調査対象地点数

調査の対象となる地点数は表 1 に示すとおり観光地点総数が 272、行祭事・イベントが 139 である。

表 1 調査対象地点数

総数	観光地点						行祭事 ・イベント
	自然	歴史 ・文化	温泉 ・健康	スポーツ・ レクリエー ション	都市型 観光	その他	
272	35	60	73	62	20	22	139

(2) 観光地点等入込客数（延べ人数）

① 総数

平成 24 年度 4 月～6 月の入込客数（延べ人数）は、岩手県全体で 7,368,617 人回となり、前年度比で 155.8%となった。また、東日本大震災津波発災前の平成 22 年度比で 97.1%となり、ほぼ震災前の水準に回復しており、震災発災後の復興支援機運やいわてデスティネーションキャンペーン等の観光振興策による効果が見られる。

② 地域別入込客数

岩手県内の 4 つの地域（県央エリア、県南エリア、沿岸エリア、県北エリア）の状況は、表 2 及び図 3 に示すとおりである。

県南エリアが 3,680,249 人回と最も多く、県北エリアが 654,999 人回と最も少なかった。震災前の平成 22 年度と比較すると沿岸エリアは 57.5%である。東日本大震災津波により観光地が被災した影響が残るものの、平成 23 年度比で 273.3%であり改善の傾向が見られる。

また、県央エリア・県南エリアにおいては、震災前の平成 22 年度比で 100%以上であり、いわてデスティネーションキャンペーン等の観光振興策による効果が見られる。

表 2 地域別入込客数（延べ人数）

単位：人回

地域区分	4 月	5 月	6 月	4-6 期合計	平成 23 年度比	平成 23 年度 4-6 期合計	平成 22 年度比	平成 22 年度 4-6 期合計
県央エリア	452,694	982,380	711,827	2,146,901	134.5%	1,596,405	114.7%	1,872,448
県南エリア	1,135,867	1,497,439	1,046,943	3,680,249	168.7%	2,181,871	106.1%	3,469,347
沿岸エリア	215,029	357,457	313,982	886,468	273.3%	324,364	57.5%	1,541,323
県北エリア	172,139	285,999	196,861	654,999	104.3%	627,899	92.9%	705,203
総計	1,975,729	3,123,275	2,269,613	7,368,617	155.8%	4,730,539	97.1%	7,588,321

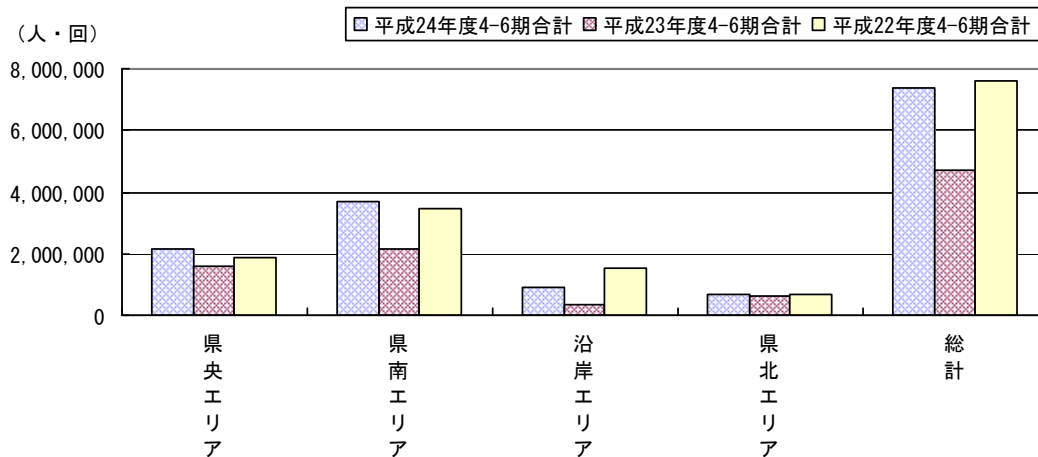


図3 地域別入込客数 (延べ人数から算出)

③ 月別入込客数

岩手県全体での月別の延べ入込客数は表3及び図4に示すとおりである。

ゴールデンウィークを含む5月が3,123,275人回と最も多い。平成23年度比では各月で100%を越えており改善の傾向が見られる。一方、平成22年度比では4月・6月はほぼ100%に対し、5月は92.8%にとどまったが、ゴールデンウィーク後半の悪天候の影響もあったものと見られる。

表3 月別入込客数 (延べ人数)

単位:人回

月	平成24年度	平成23年度比	平成23年度	平成22年度比	平成22年度
4月	1,975,729	195.4%	1,010,989	101.4%	1,947,672
5月	3,123,275	164.9%	1,894,290	92.8%	3,366,690
6月	2,269,613	124.3%	1,825,260	99.8%	2,273,959

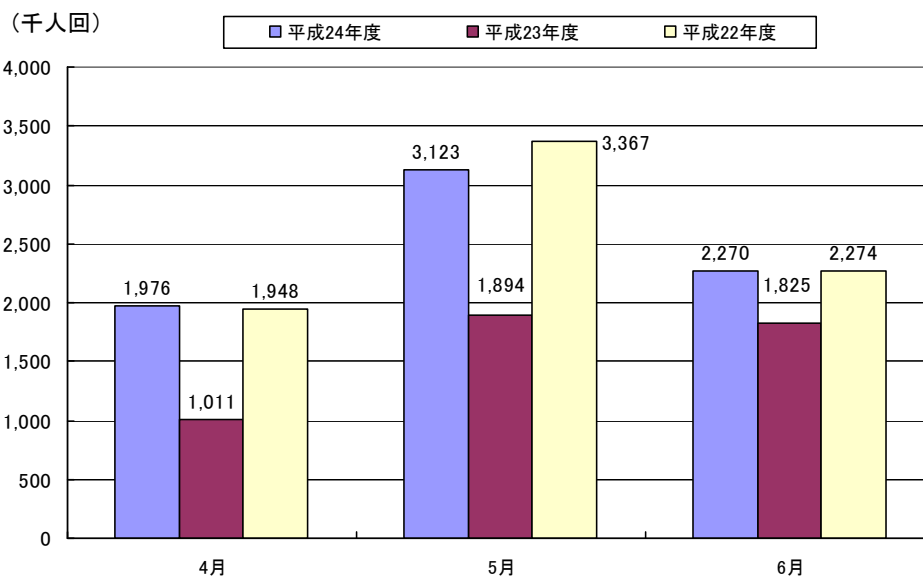


図4 月別入込客数 (延べ人数から算出)

④ 市町村別・月別入込客数

岩手県内の市町村毎の月別入込客数（延べ人数）は表 4 並びに図 5-1、5-2、6-1 及び 6-2 に示すとおりである。

最も入込客数が多かったのは 平泉町の 935,346 人回で、次いで盛岡市の 910,953 人回、花巻市の 514,786 人回、遠野市の 504,611 人回となった。

震災前の平成 22 年度と比較すると、増加割合が多いのは、平泉町 161.7%、盛岡市 153.3% などであり、一方沿岸地域では久慈市、普代村を除き、平成 22 年度比で減少となっており、宿泊・観光施設の復旧度合によるものと考えられる。

表 4 市町村別・月別入込客数（延べ人数）

地域別	4 月	5 月	6 月	4-6 期合計	平成 23 年度 比	平成 23 年度 4-6 期合計	平成 22 年度 比	平成 22 年度 4-6 期合計
盛岡市	133,932	495,606	281,415	910,953	175.6%	518,785	153.3%	594,367
宮古市	41,257	82,611	70,890	194,758	261.4%	74,500	65.3%	298,340
大船渡市	85,726	104,320	136,869	326,915	313.9%	104,157	92.4%	353,637
花巻市	105,973	162,327	246,486	514,786	130.6%	394,158	106.8%	481,833
北上市	298,820	115,978	4,000	418,798	295.6%	141,670	81.4%	514,438
久慈市	37,417	36,481	37,688	111,586	149.8%	74,491	112.8%	98,909
遠野市	140,461	193,384	170,766	504,611	90.3%	558,780	94.9%	531,643
一関市	124,912	244,081	218,067	587,060	113.4%	517,648	94.2%	622,937
陸前高田市	4,998	5,609	5,032	15,639	-	-	7.5%	209,212
釜石市	22,768	29,875	25,920	78,563	364.6%	21,549	40.8%	192,455
二戸市	22,681	44,479	24,473	91,633	96.8%	94,633	89.4%	102,517
八幡平市	75,986	87,368	75,138	238,492	115.0%	207,313	86.8%	274,913
奥州市	221,121	147,858	130,215	499,194	308.1%	162,022	97.4%	512,725
雫石町	116,009	219,892	149,850	485,751	124.8%	389,378	113.2%	429,052
葛巻町	19,677	37,990	76,177	133,844	81.5%	164,229	74.1%	180,595
岩手町	16,503	23,284	22,430	62,217	104.7%	59,397	107.9%	57,640
滝沢村	16,131	54,447	53,734	124,312	237.3%	52,394	134.2%	92,662
紫波町	45,602	44,212	34,845	124,659	89.3%	139,649	75.2%	165,767
矢巾町	28,854	19,581	18,238	66,673	102.2%	65,260	86.1%	77,452
西和賀町	34,499	48,841	38,721	122,061	94.9%	128,686	100.6%	121,332
金ヶ崎町	31,832	31,655	34,906	98,393	102.3%	96,145	92.7%	106,144
平泉町	178,249	553,315	203,782	935,346	511.8%	182,762	161.7%	578,295
住田町	7,997	12,276	9,685	29,958	73.1%	40,963	89.7%	33,393
大槌町	-	-	-	-	-	-	-	21,123
山田町	17,583	20,030	19,474	57,087	-	-	72.3%	78,984
岩泉町	22,350	39,936	28,262	90,548	140.0%	64,655	75.5%	119,929
田野畑村	12,350	62,800	17,850	93,000	501.6%	18,540	39.7%	234,250
普代村	3,577	5,580	5,788	14,945	380.3%	3,930	130.3%	11,468
軽米町	5,545	22,451	7,793	35,789	98.9%	36,197	65.3%	54,768
野田村	23,369	24,427	23,694	71,490	100.2%	71,325	88.4%	80,834
九戸村	3,223	3,913	3,608	10,744	96.5%	11,131	95.5%	11,247
洋野町	53,435	94,542	60,661	208,638	92.6%	225,410	90.2%	231,182
一戸町	22,892	54,126	33,156	110,174	99.5%	110,782	96.4%	114,278
総計	1,975,729	3,123,275	2,269,613	7,368,617	155.8%	4,730,539	97.1%	7,588,321

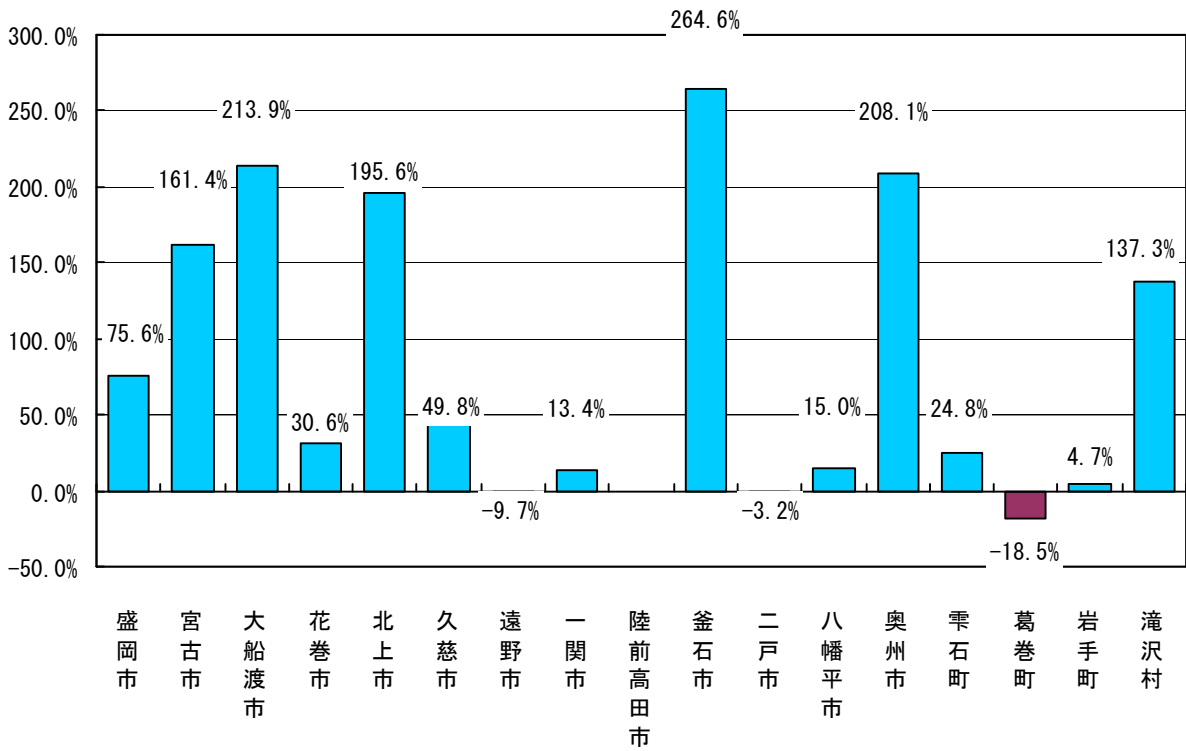


図5-1 市町村別・月別入込客数 平成23年度増減比(1)

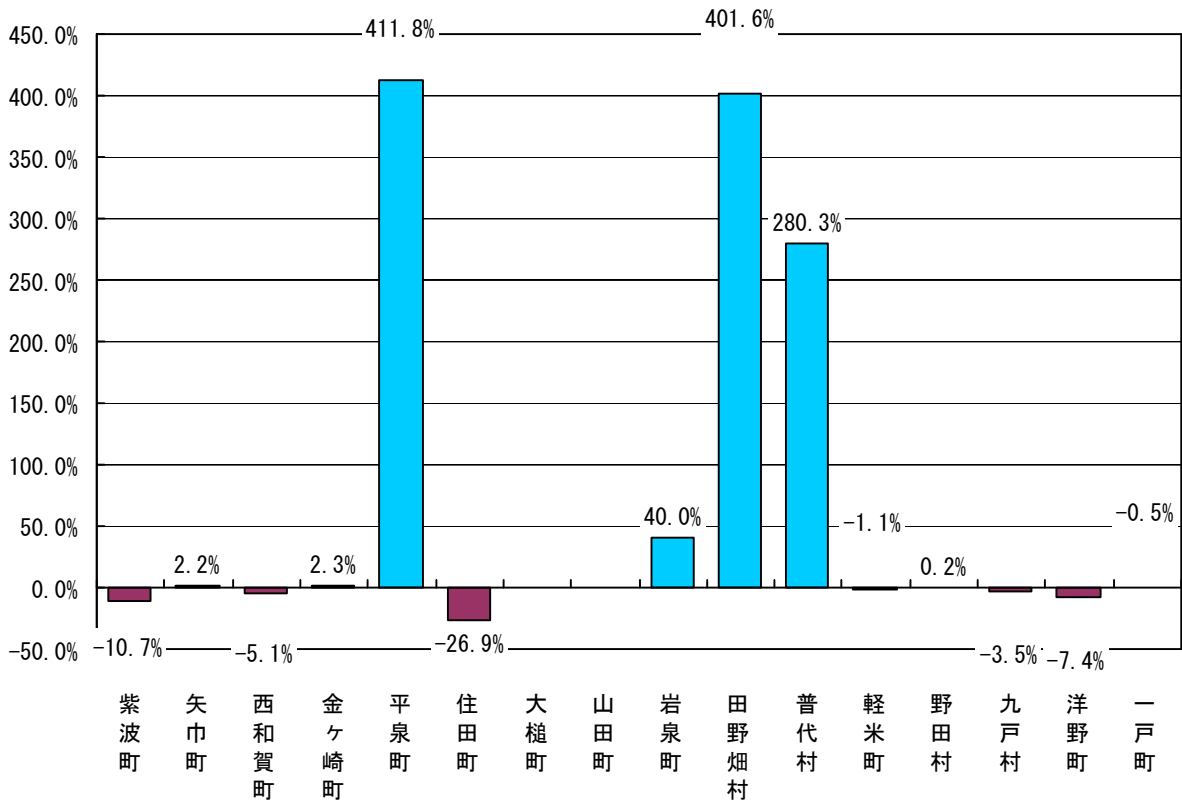


図5-2 市町村別・月別入込客数 平成23年度増減比(2)

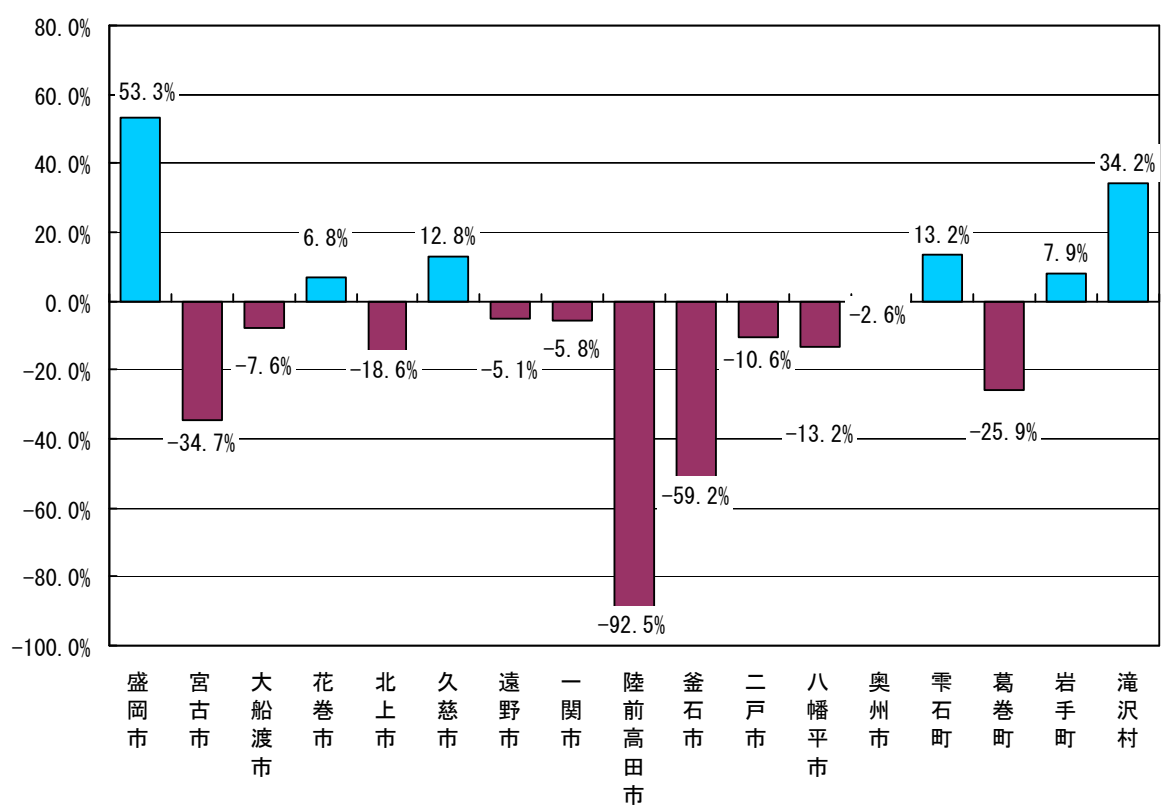


図6-1 市町村別・月別入込客数 平成22年度増減比(1)

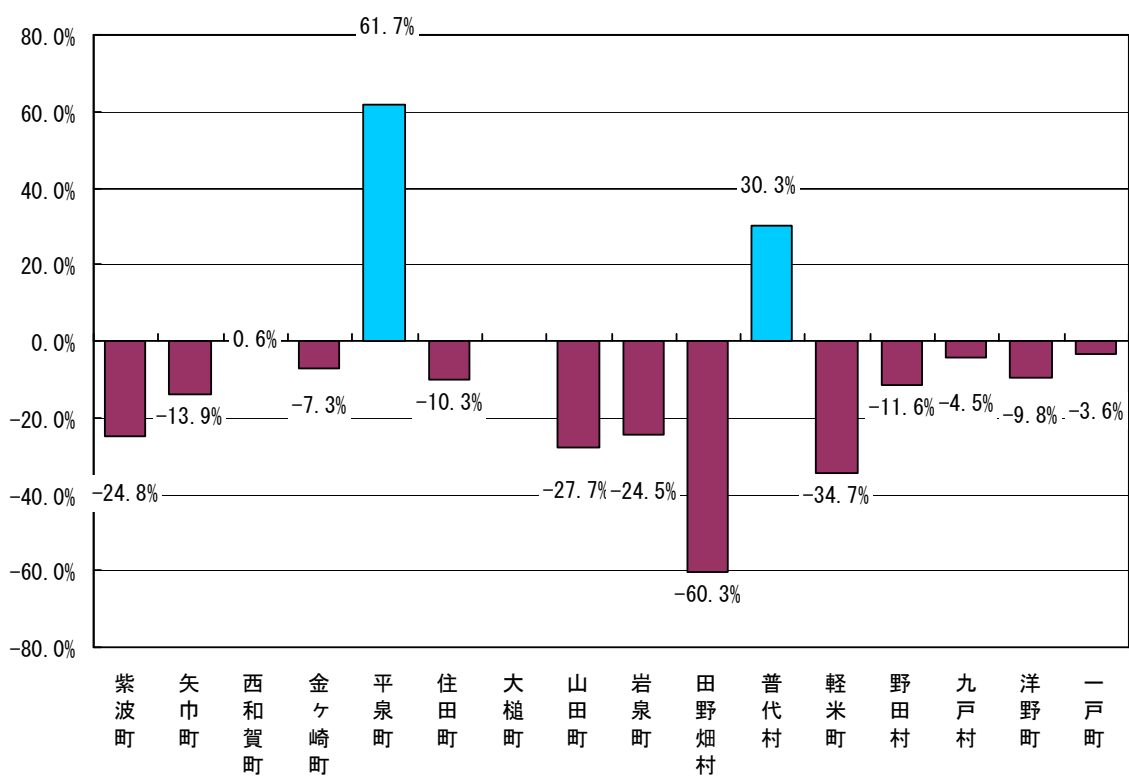


図6-2 市町村別・月別入込客数 平成22年度増減比(2)

⑤ 地域別・分類別入込客数

岩手県内の地域別・分類別の入込客数及び割合（延べ人数から算出）は表5及び図7に示すとおりである。

県南エリア、県央エリアを中心に「行祭事・イベント」での入込が多く、岩手県全体で見て1,760,220人回と最も多い分類となっている。次いで「温泉・健康」の1,272,228人回となり、こちらは県央エリア、県南エリアが入込を牽引している。一方、沿岸エリアでは「自然」での入込割合が多く、県北エリアでは「スポーツ・レクリエーション」での入込割合が多いことが伺える。

表5 地域別・分類別入込客数

単位：人回

地域区分	自然	歴史・文化	温泉・健康	スポーツ・レクリエーション	都市型観光（買物・食）	その他	行祭事・イベント
県央エリア	263,995	292,896	511,428	372,606	56,832	198,517	450,627
県南エリア	420,185	791,492	540,178	224,237	516,003	39,387	1,148,767
沿岸エリア	302,779	22,222	87,278	8,953	145,128	218,183	101,925
県北エリア	98,827	48,565	133,344	249,504	43,976	21,882	58,901
総計	1,085,786	1,155,175	1,272,228	855,300	761,939	477,969	1,760,220

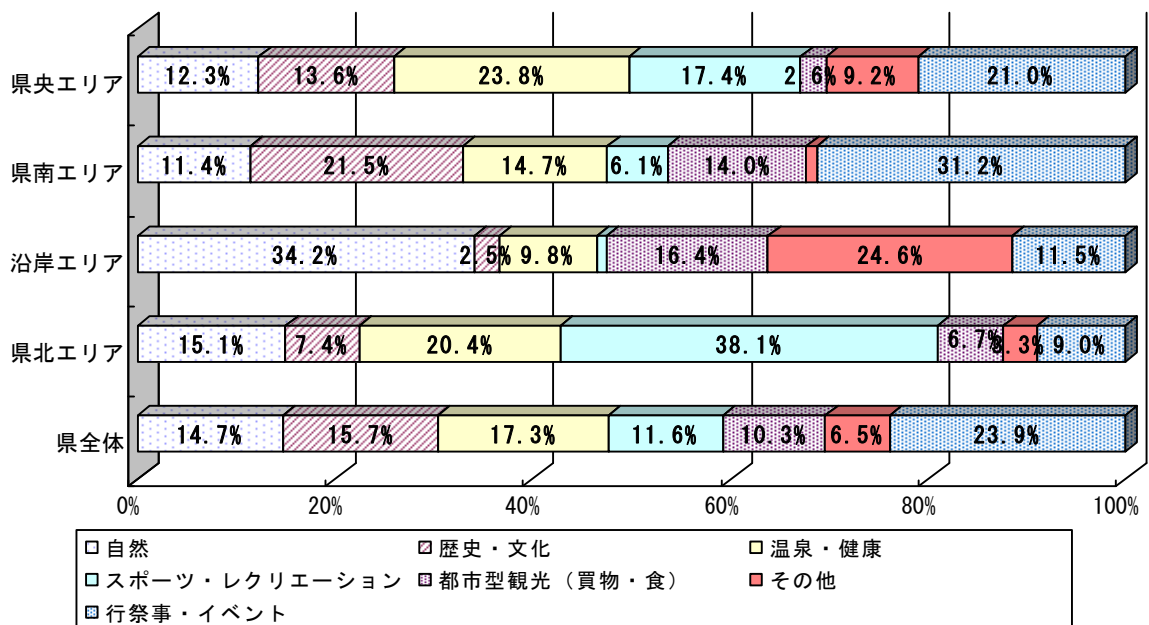


図7 地域別・分野別入込割合（延べ人数から算出）

(3) 観光入込客数（実人数）

観光入込客数（実人数）は表 6、表 7 及び図 8 に示すとおりである。

なお、この入込客数は実人数であり、観光地点等ごとの重複を除いた数値である。1 人の観光入込客が当該都道府県内の複数の観光地点等を訪れたとしても 1 人・回と数える。

本県を訪れた観光目的の入込客数は、平成 23 年度比 102.7%、平成 22 年度比 71.0%であった。宿泊及び日帰り別では、日帰り客合計が平成 23 年度・22 年度に比べ減少しているものの、宿泊客合計は増加しており、特に県外客の増加が顕著である。要因として、沿岸被災地へのボランティアや観光などにより、県外客の旅行形態が日帰りから宿泊に一部シフトしたため、日帰り客の割合が減少し、宿泊客の割合が増加したものと考えられる。

また、ビジネス兼観光目的の入込客数は、平成 23 年度比 187.4%、平成 22 年度比 157.6%であった。要因としては、東日本大震災津波の復旧・復興支援として長期滞在している方が観光に訪れたことが考えられる。

表 6 日帰り宿泊別・県内県外別入込客数（実人数）

単位：千人・回

推計項目	宿泊			日帰り			4-6 期 合計
	宿泊計	県外	県内	日帰り計	県外	県内	
観光目的 入込客数	642	425	217	1,938	781	1,157	2,580
平成 23 年度比	115.9%	135.3%	90.4%	99.0%	88.4%	107.7%	102.7%
平成 23 年度 4-6 期合計	554	314	240	1,957	883	1,074	2,511
平成 22 年度比	111.1%	116.4%	101.9%	63.4%	73.4%	58.1%	71.0%
平成 22 年度 4-6 期合計	578	365	213	3,056	1,064	1,992	3,634
ビジネス兼 観光目的入込客数	493	353	140	292	57	235	785
平成 23 年度比	143.7%	152.2%	126.1%	384.2%	皆増	309.2%	187.4%
平成 23 年度 4-6 期合計	343	232	111	76	0	76	419
平成 22 年度比	129.1%	133.2%	119.7%	251.7%	475.0%	226.0%	157.6%
平成 22 年度 4-6 期合計	382	265	117	116	12	104	498

（注）入込客数には訪日外国人を含まない。

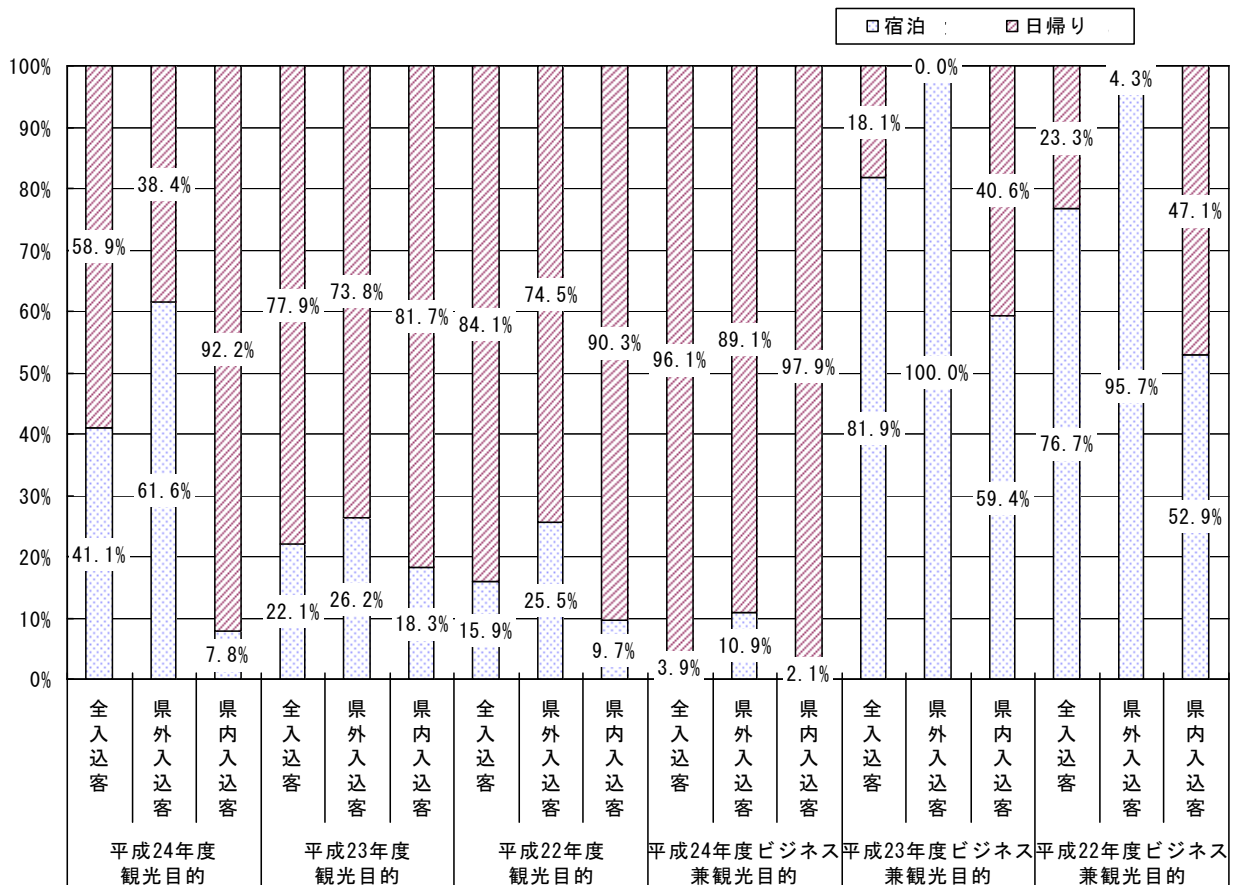


図8 年度別・目的別の宿泊・日帰り割合

また、本県を訪れた訪日外国人入込客数は、平成23年度比400.0%、平成22年度比47.1%であった。要因としては、東日本大震災津波の風評被害等が改善に向かい、外国人観光客が戻りつつあること、平泉が世界文化遺産に登録されたことなどが考えられる。

表7 日帰り宿泊別・観光ビジネス別 訪日外国人入込客数（実人数）

単位：千人・回

推計項目	宿泊			日帰り			4-6期合計
	宿泊計	観光	ビジネス	日帰り計	観光	ビジネス	
訪日外国人入込客数	8	5	3	0	0	0	8
平成23年度比	400.0%	500.0%	300.0%	0.0%	0.0%	0.0%	400.0%
平成23年度4-6期合計	2	1	1	0	0	0	2
平成22年度比	47.1%	38.5%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	47.1%
平成22年度4-6期合計	17	13	4	0	0	0	17

(4) 観光消費額

① 観光消費額単価（日帰り宿泊別・県内県外別）

観光消費額単価は表 8、表 9 及び図 9 に示すとおりである。

なお、単位の「円／人・回」は、観光入込客 1 人の 1 回の旅行における観光消費額を指す。

観光目的の宿泊客の観光消費額単価は、県内客では平成 23 年度比 109.6%、平成 22 年度比 76.0%であり、県外客では平成 23 年度比 103.1%、平成 22 年度比 84.2%である。県内客・県外客ともに平成 23 年度よりは増加し、震災前の平成 22 年度の水準に戻りつつある。

また、日帰り客の観光消費額単価は、県内客では平成 23 年度比 89.1%、平成 22 年度比 99.7%であり、県外客では平成 23 年度比 130.1%、平成 22 年度比 90.8%である。

宿泊客より日帰り客の観光消費額単価の方が、震災前の平成 22 年度の水準に向かう戻りが速い。

一方、ビジネス兼観光目的の観光消費額単価は、震災前の平成 22 年度より総じて増加している。要因として、東日本大震災津波の復旧・復興支援としての滞在期間の増加が考えられるが、ビジネス兼観光目的の観光消費額単価のようなサンプル数が少ない数値については、1 回答者の金額の影響が大きいことから、時系列での比較が難しいことを付け加える。

表 8 日帰り宿泊別・県内県外別・観光消費額単価

単位：円／人・回

推計項目	宿泊		日帰り	
	県外	県内	県外	県内
観光目的 観光消費額単価	25,715	16,151	7,993	3,790
平成 23 年度比	103.1%	109.6%	130.1%	89.1%
平成 23 年度 4-6 期消費額単価	24,938	14,733	6,145	4,256
平成 22 年度比	84.2%	76.0%	90.8%	99.7%
平成 22 年度 4-6 期消費額単価	30,556	21,257	8,799	3,803
ビジネス兼観光 目的観光消費額単価	35,348	28,932	10,830	2,955
平成 23 年度比	87.4%	227.8%	-	167.1%
平成 23 年度 4-6 期消費額単価	40,452	12,700	-	1,768
平成 22 年度比	124.7%	150.4%	169.9%	96.0%
平成 22 年度 4-6 期消費額単価	28,350	19,238	6,374	3,078

(注) 観光消費額単価には訪日外国人を含まない。

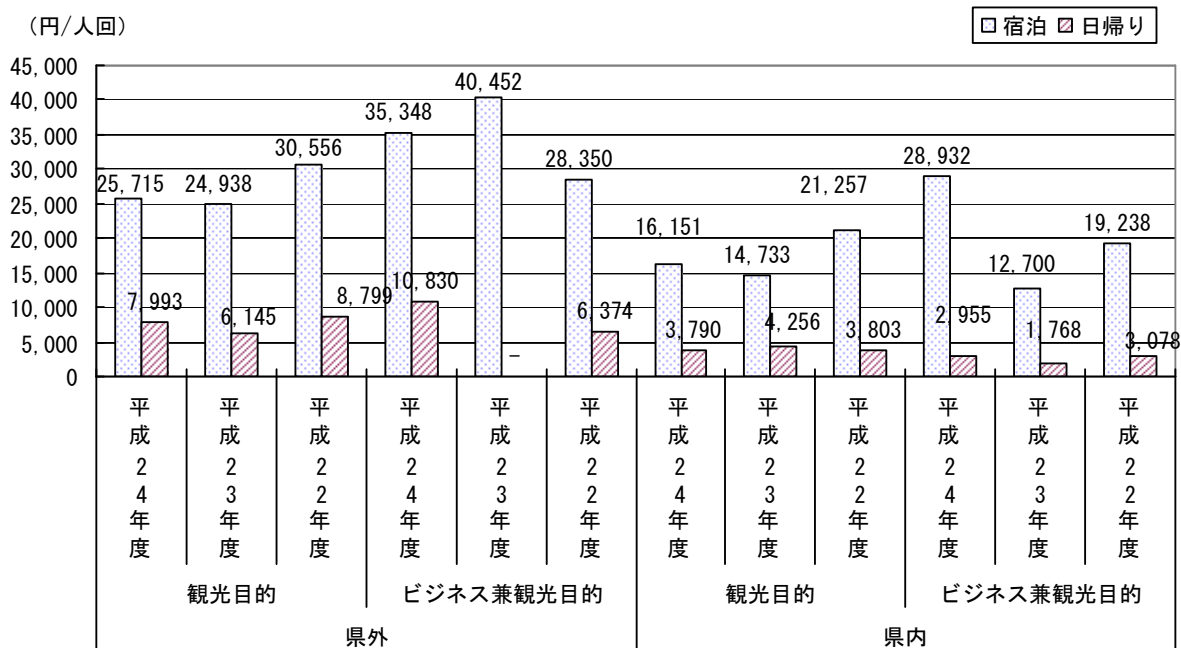


図9 日帰り宿泊別・県内県外別観光消費額単価

日帰り宿泊別・観光ビジネス別訪日外国人観光消費額単価は表9に示すとおりである。
 観光消費額単価は、パラメータ調査での値であることから、訪日外国人観光消費額単価のようなサンプル数が少ない数値については、1回答者の金額の影響が大きく、時系列での比較が難しいことを付け加える。

表9 日帰り宿泊別・観光ビジネス別 訪日外国人観光消費額単価

単位：円/人・回

推計項目	宿泊		日帰り	
	観光	ビジネス	観光	ビジネス
訪日外国人 観光消費額単価	10,927	66,937	7,585	7,715
平成23年度比	4.1%	31.8%	13.5%	57.1%
平成23年度 4-6期消費額単価	266,585	210,500	56,085	13,517
平成22年度比	6.5%	151.9%	6.2%	47.6%
平成22年度 4-6期消費額単価	167,041	44,060	122,981	16,218

② 観光消費額（日帰り宿泊別・県内県外別）

日帰り宿泊別・県内県外別観光消費額は表 10 及び図 10 に示すとおりである。

観光目的の観光消費額の総額は、平成 23 年度比 117.2%、平成 22 年度比 76.8%である。宿泊客及び日帰り客ともに、平成 22 年度に比べ減少しているものの、日帰り客よりも宿泊客の観光消費額の方が改善傾向にある。要因としては、沿岸被災地へのボランティアや観光などにより、県外客の旅行形態が日帰りから宿泊に一部シフトしたため、日帰り客の割合が減少、宿泊客の割合が増加し、総額も増加したものと考えられる。

一方、ビジネス兼観光目的の観光消費額の総額は、平成 23 年度比 163.3%、平成 22 年度比 176.0%と大幅に増加している。要因として、東日本大震災津波の復旧・復興支援としてのビジネス客数及び滞在期間の増加により、観光消費額が増加したものと考えられる。

表 10 日帰り宿泊別・県内県外別観光消費額

単位：百万円

推計項目	宿泊			日帰り			総額
	宿泊 総数	県外	県内	日帰り 総数	県外	県内	
観光目的 観光消費額	14,419	10,919	3,500	10,623	6,240	4,383	25,042
平成 23 年度比	126.9%	139.4%	99.2%	106.2%	114.9%	95.9%	117.2%
平成 23 年度 4-6 期観光消費額	11,363	7,833	3,530	9,999	5,429	4,570	21,362
平成 22 年度比	92.0%	97.9%	77.3%	62.7%	66.6%	57.9%	76.8%
平成 22 年度 4-6 期観光消費額	15,681	11,155	4,526	16,937	9,363	7,574	32,618
ビジネス兼 観光目的観光消費額	16,541	12,484	4,057	1,312	619	693	17,853
平成 23 年度比	153.2%	133.0%	287.5%	971.9%	-	513.3%	163.3%
平成 23 年度 4-6 期観光消費額	10,800	9,389	1,411	135	-	135	10,935
平成 22 年度比	169.6%	166.3%	180.7%	334.7%	847.9%	217.2%	176.0%
平成 22 年度 4-6 期観光消費額	9,751	7,506	2,245	392	73	319	10,143

(注) 観光消費額には訪日外国人を含まない。

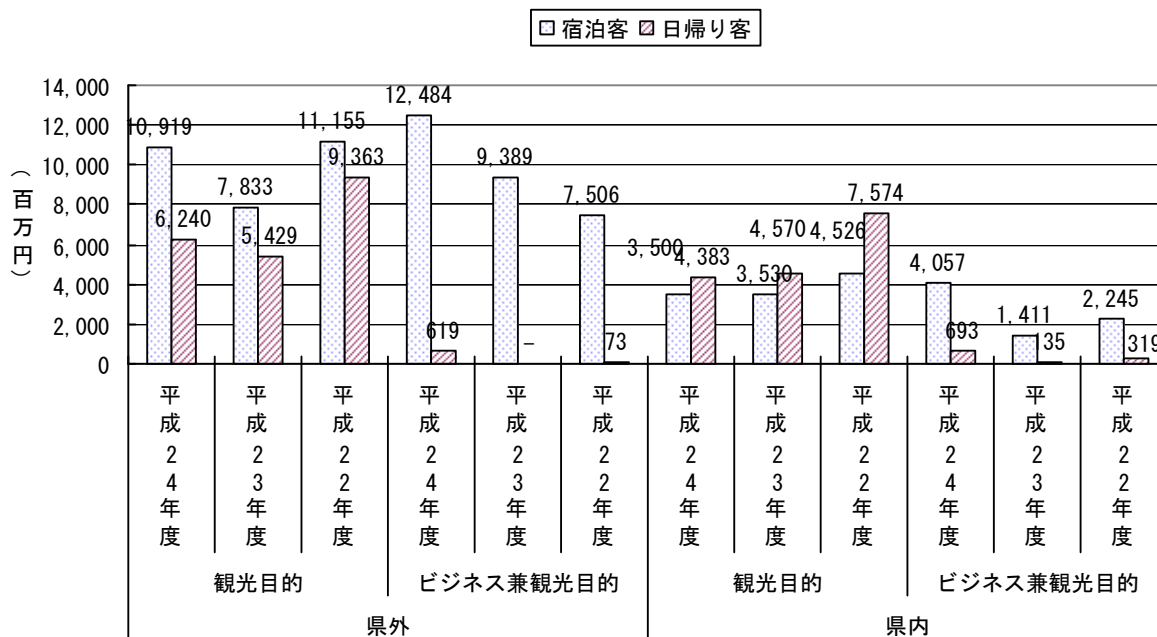


図 10 日帰り宿泊別・県内県外観光消費額

日帰り宿泊別・観光ビジネス別 訪日外国人観光消費額は表 11 に示すとおりである。

訪日外国人の観光消費額の総額は、平成 23 年度比 125.3%、平成 22 年度比 20.2%である。また、観光とビジネスの内訳に着目すると、ビジネスの消費額は回復傾向にあるが、観光の消費額は震災後低迷していることが見て取れる。

一方、この観光消費額は、表 9 で示した観光消費額単価に、表 7 に示した入込客数を掛け合わせた金額であることから、訪日外国人のようなサンプル数が少ない数値については、時系列での比較が難しいことを付け加える。

表 11 日帰り宿泊別・観光ビジネス別 訪日外国人観光消費額

単位：百万円

推計項目	宿泊			日帰り			総額
	宿泊総数	観光	ビジネス	日帰り総数	観光	ビジネス	
訪日外国人観光消費額	223	55	168	0	0	0	223
平成 23 年度比	125.3%	46.6%	280.0%	-	-	-	125.3%
平成 23 年度 4-6 期観光消費額	178	118	60	0	0	0	178
平成 22 年度比	20.2%	9.4%	32.6%	-	-	-	20.2%
平成 22 年度 4-6 期観光消費額	1103	587	516	0	0	0	1,103

第2部 観光地点パラメータ調査結果から見る観光客の動向分析

1. 調査概要

今回実施した観光地点を対象としたアンケート調査の概要は以下のとおりである。

[調査実施時期] 平成24年6月

[調査地点] 下記のとおり、岩手県内の観光地点10ヶ所で実施

[調査内容] 観光の目的、訪問（予定）観光地点、交通手段、滞在日数、旅行予算など観光に係る項目

[調査票回収件数] 853件

調査地点別の回収件数、旅行人数は以下のとおりである。

表 12 アンケート調査票件数、旅行人数（調査地点別）

調査地点	調査実施時期				
	市町村名	地域名	調査実施日	調査票回収件数	旅行人数 (本人含む)
小岩井農場	雫石町	県央地域	6/9	77	378
盛岡手づくり村	盛岡市	県央地域	6/9	58	352
道の駅にしね	八幡平市	県央地域	6/23	84	374
平泉（中尊寺）	平泉町	県南地域	6/10	100	407
道の駅遠野風の丘	遠野市	県南地域	6/16	79	427
宮沢賢治記念館	花巻市	県南地域	6/23	72	410
道の駅くじ「やませ土風館」	久慈市	県北地域	6/16, 6/17	111	354
なにやーと物産センター	二戸市	県北地域	6/16, 6/17	115	336
浄土ヶ浜	宮古市	沿岸地域	6/23, 6/24	98	519
碁石海岸	大船渡市	沿岸地域	6/16, 6/17	59	243
合計				853	3,800

今回実施したアンケート調査結果を集計した結果について、次項以降において説明する。

2. 観光客の動向分析

(1) 問1 住まいの地域

問1は、旅行者の住まいの地域に関する設問である。問1の結果を集計しグラフ化したものが、図11である。

この結果、アンケート調査回答者の4割強は県内からの来訪者であり、県外からの来訪者は約6割弱(59.7%)である。海外からの来訪者は0.4%であった。

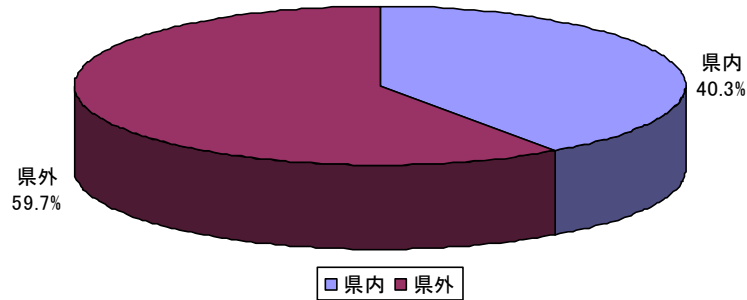


図11 地域別・分類別入込割合(延べ人数から算出)

県外からの来訪者について都道府県別に旅行人数を集計し、グラフ化したものが図12である。

県外客で最も人数が多いのは宮城県(15.1%)、続いて青森県(13.0%)、東京都(11.6%)、神奈川県(9.8%)であり、4都県で5割近くを占めている。

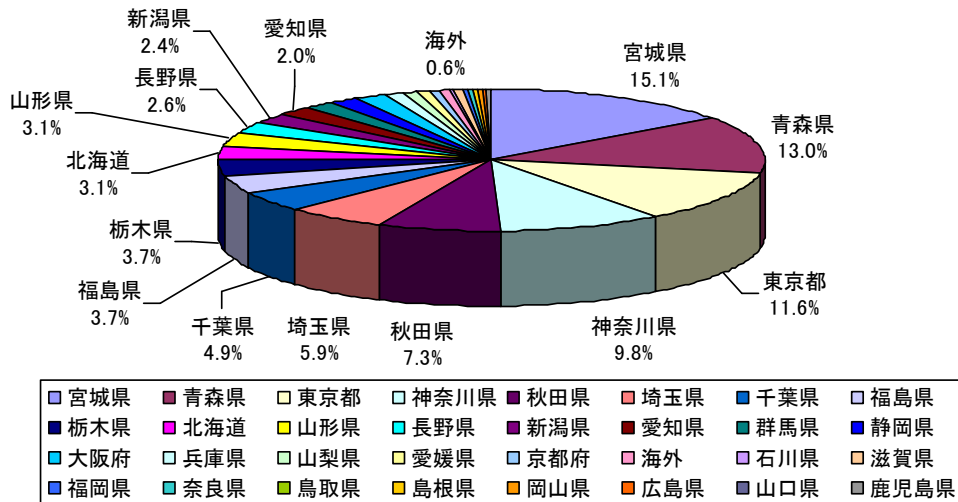


図12 県外客の住まいの地域(岩手県及び来訪者0人の都道府県を除く)

表13 各県当たり観光客数(岩手県及び来訪者0人の県を除く)

宮城県	青森県	東京都	神奈川県	秋田県	埼玉県	千葉県	福島県
15.1%	13.0%	11.6%	9.8%	7.3%	5.9%	4.9%	3.7%
77人	66人	59人	50人	37人	30人	25人	19人
栃木県	北海道	山形県	長野県	新潟県	愛知県	群馬県	静岡県
3.7%	3.1%	3.1%	2.6%	2.4%	2.0%	1.8%	1.8%
19人	16人	16人	13人	12人	10人	9人	9人
大阪府	兵庫県	山梨県	愛媛県	京都府	海外	石川県	滋賀県
1.8%	1.2%	0.8%	0.8%	0.6%	0.6%	0.4%	0.4%
9人	6人	4人	4人	3人	3人	2人	2人
福岡県	奈良県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	鹿児島県
0.4%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
2人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人

(2) 問2 性別・年代

問2は、旅行者の性別、年代に関する設問である。

性別を集計しグラフ化したのが図13である。この図より、性別の構成をみると男女ほぼ同数である。

また、年代構成を集計しグラフ化したのが図14である。この図より、「60歳代」が最も多いことがわかる。県内・県外別で比較すると、40歳代以下は県内の割合が多く、50歳以上は県外の割合が多くなる傾向にある。

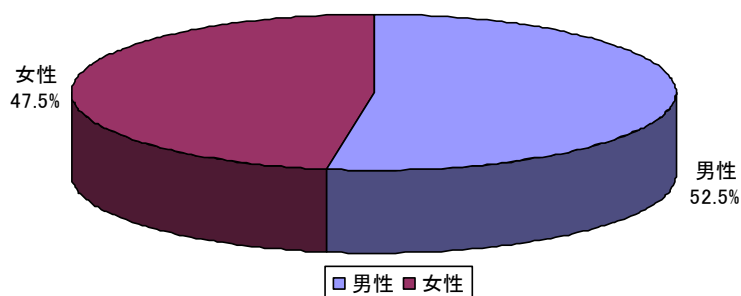


図13 旅行者の性別

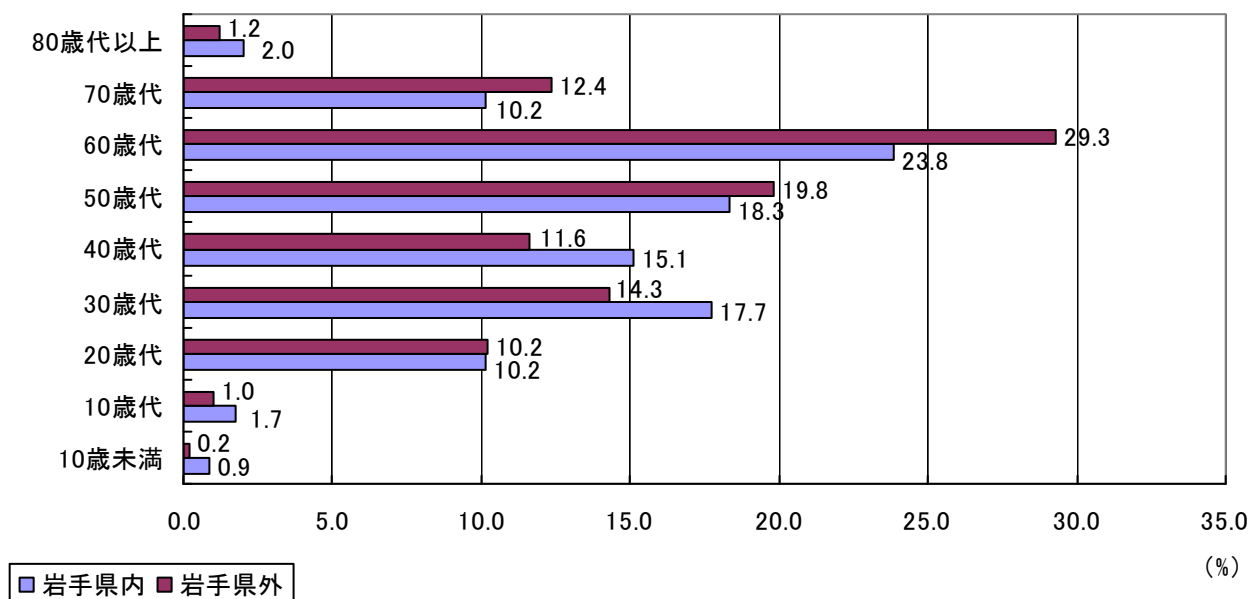


図14 岩手県内／外旅行者の年代構成（比率）

(3) 問3 宿泊形態および宿泊数

問3は、旅行の日帰り・宿泊の区分、および県内の宿泊に関する設問である。本設問の回答結果を日帰り、宿泊の区分別に集計しグラフ化したのが図15である。

旅行者の宿泊形態は日帰りと宿泊がほぼ同じ割合であった。

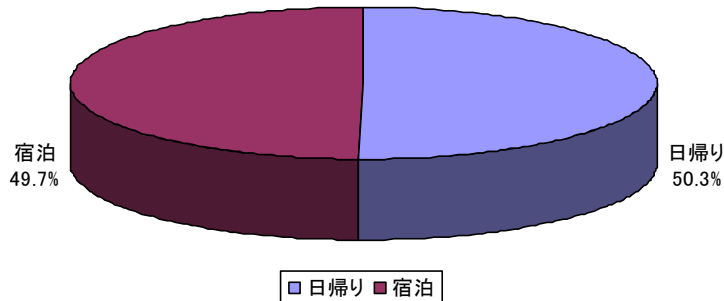


図15 旅行者の宿泊形態

旅行者の全日程及び岩手県内における宿泊日数を集計しグラフ化したのが図16、17である。宿泊客全体（県外宿泊も含む）の宿泊日数は「1日」が最も多く、全体の半分（50.2%）を占めている。岩手県内では、宿泊日数「1日」の割合が66.4%である。

※宿泊数平均 2.1(泊) 県内宿泊数平均1.3(泊)

また、利用した県内の宿泊施設の種類数を集計しグラフ化したのが図18である。

この図より、県内宿泊者の9割弱は、宿泊施設の種類数は「1種類」である。

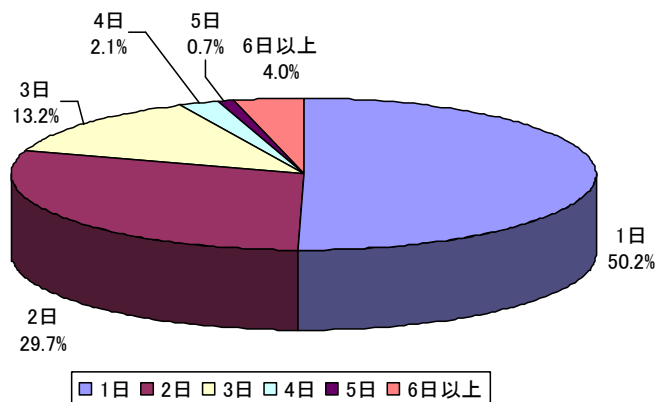


図16 宿泊数（全日程）

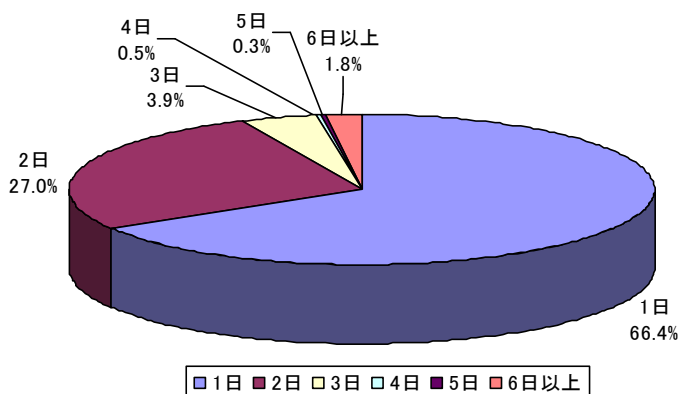


図17 岩手県内宿泊数

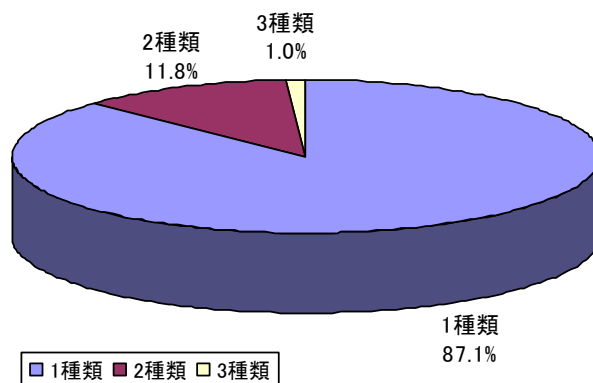


図 18 岩手県内宿泊施設数

利用した県内の宿泊施設の種類を集計しグラフ化したのが図 19 である。県内宿泊者が利用する宿泊施設の種類は「ホテル」(51.4%) が最も多く、次いで「旅館」(25.0%) である。また、「実家や知人・親戚宅」が 12.3% を占め、それ以外の項目は数% 程度である。

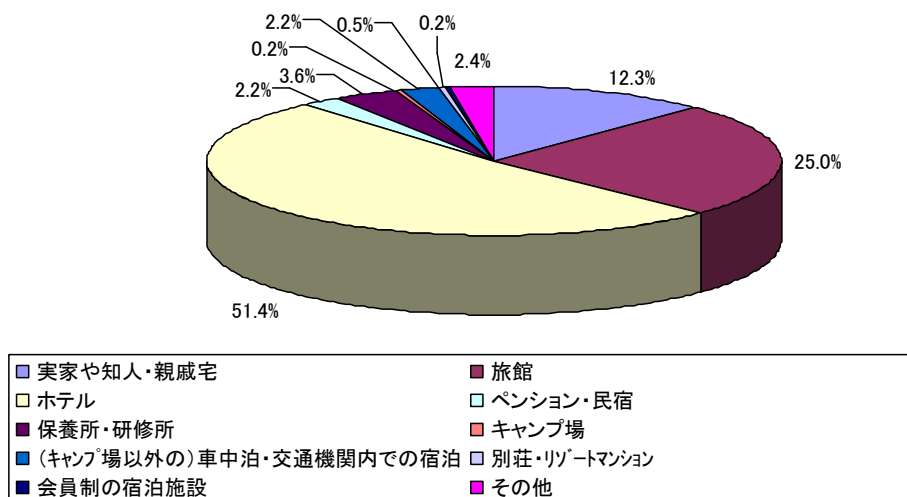


図 19 宿泊施設の種類

表 14 宿泊施設の内訳

実家や知人・親戚宅	旅館	ホテル	ペンション・民宿	保養所・研修所
12.3%	25.0%	51.4%	2.2%	3.6%
51 人	104 人	214 人	9 人	15 人
キャンプ場	(キャンプ場以外の)車中泊・交通機関内での宿泊	別荘・リゾートマンション	会員制の宿泊施設	その他
0.2%	2.2%	0.5%	0.2%	2.4%
1 人	9 人	2 人	1 人	10 人

(4) 問4 訪問の目的

問4は、訪問の目的に関する設問である。

本設問の結果を集計しグラフ化したのが図20である。

訪問の目的は「観光」が74.3%、「ビジネス」が5.9%、「帰省・知人訪問」が6.2%であった。

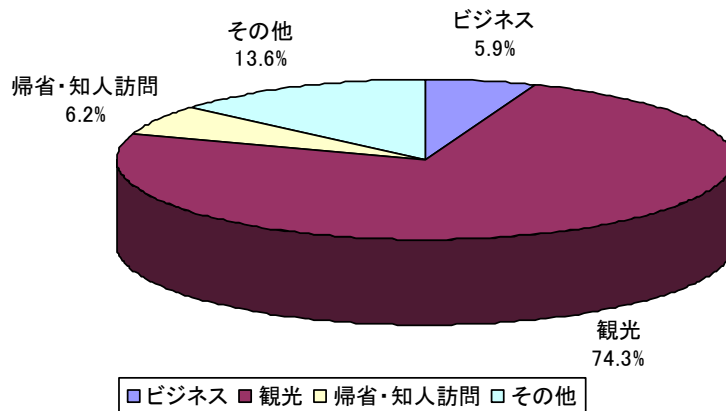


図20 訪問の目的

(5) 問5 旅行人数、同行者のタイプ

問7は、旅行人数および同行者のタイプに関する設問である。

「旅行人数」別に集計しその回答比率をグラフ化したのが図21である。旅行人数が最も多かったのは「2人」(38.7%)である。その他、「1人」(17.6%)、「3人」(14.9%)などである。

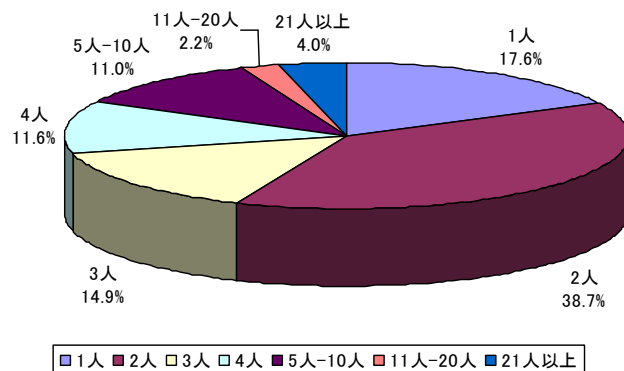


図21 訪問の目的

同行者のタイプ別に集計しその回答比率をグラフ化したのが図22である。「同行者のタイプ」として最も多いのは「家族」(66.5%)で、回答者全体の約6割を占めた。その他、「友人」(22.0%)、「職場・学校等の団体旅行」(7.3%)などである。

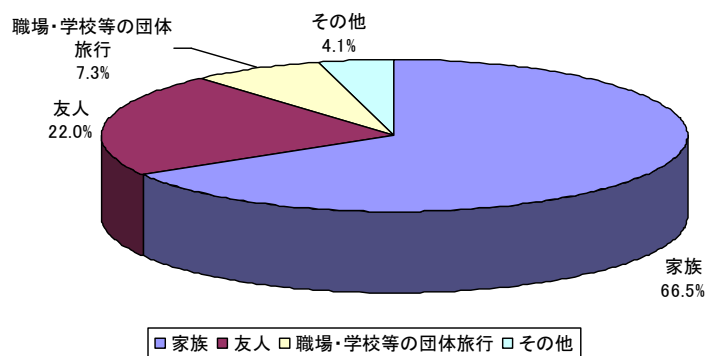


図22 同行者のタイプ

(6) 問6 観光地訪問の認知、回数

問6、7は、岩手県内観光地訪問経験の認知及び、県外からの来訪者に対する岩手県訪問の認知及び回数に関する設問である。

調査地点とした観光地訪問の認知度は、岩手県内来訪者で95.6%、岩手県外来訪者でも9割近くの89.0%の方が「知っている」と回答した。

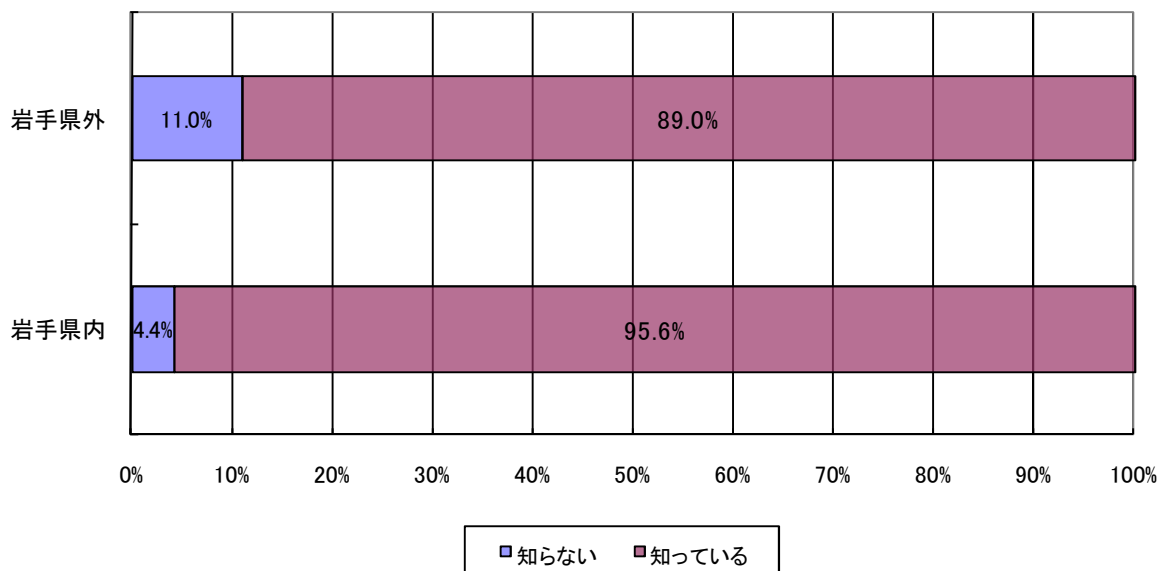


図23 観光地訪問の認知

(7) 問7 岩手県訪問の認知、回数 (岩手県外の方のみ対象の設問)

問7は岩手県外からの来訪者を対象にした、岩手県訪問の認知及び回数に関する設問である。

本設問中、岩手県訪問の認知を質問したところ、約9割(90.6%)の来訪者が「知っている」と回答した。

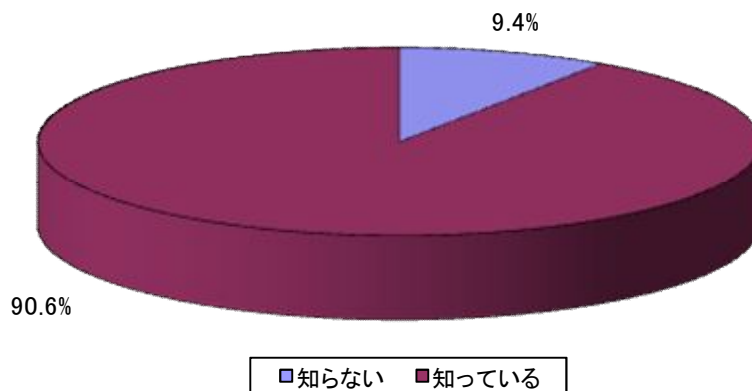


図24 岩手県訪問の認知 (岩手県外来訪者)

(8) 問8 観光地への交通機関

問8は、岩手県への来県や観光地への訪問で利用した交通機関、および訪問やその予定のある岩手県内観光地やその他立ち寄り都道府県に関する設問である。

調査地点とした観光地へ来訪する際に利用した交通機関の集計をグラフ化したものが図25である。この図より、最も多く利用されているのが「自家用車、社用・公用車（60.3%）」であり、続いて「JR新幹線（24.5%）」、「貸切バス・観光バス（4.0%）」となっている。この上位3位で全体の9割近く（88.8%）を占めている。

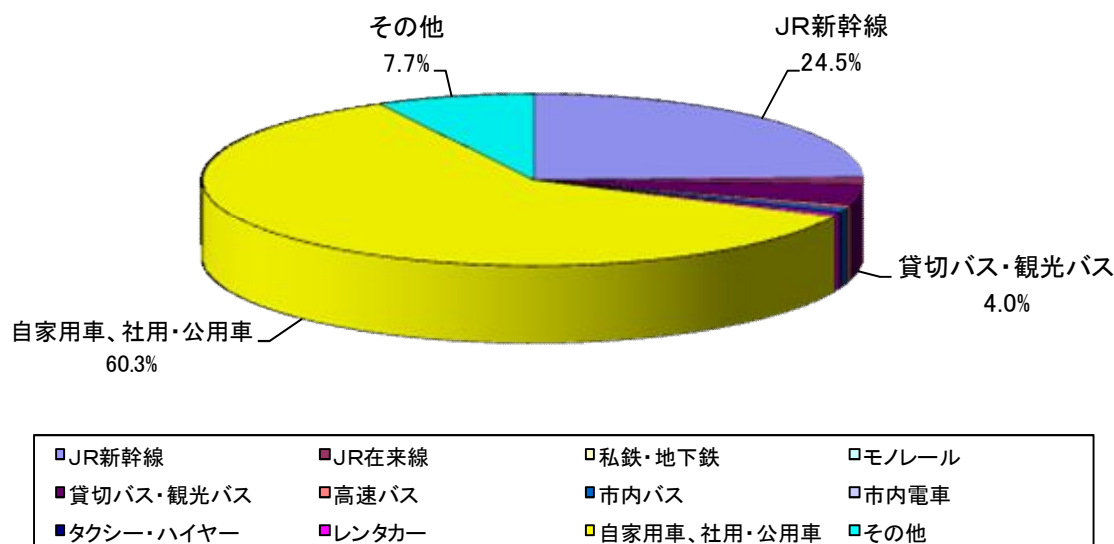


図25 観光地点への交通機関

表15 観光地点への交通機関内訳

JR新幹線	JR在来線	私鉄・地下鉄	モノレール
24.5%	1.3%	0.0%	0.0%
貸切バス・観光バス	高速バス	市内バス	市内電車
4.0%	0.6%	0.8%	0.0%
タクシー・ハイヤー	レンタカー	自家用車、社用・公用車	その他
0.2%	0.6%	60.3%	7.7%

(9) 問9 今回の旅行費用について

問9は、今回の旅行費用に関する設問である。

1人当たりの岩手県内における交通費を集計しグラフ化したものが図26、27であり、岩手県外に置ける交通費を集計したグラフが図28、29である。

岩手県外の交通費において、2,000円未満の旅行者が全体の72.6%を占めるものの、県外旅行者については10,000円利用している割合が10%程度あることがわかる。

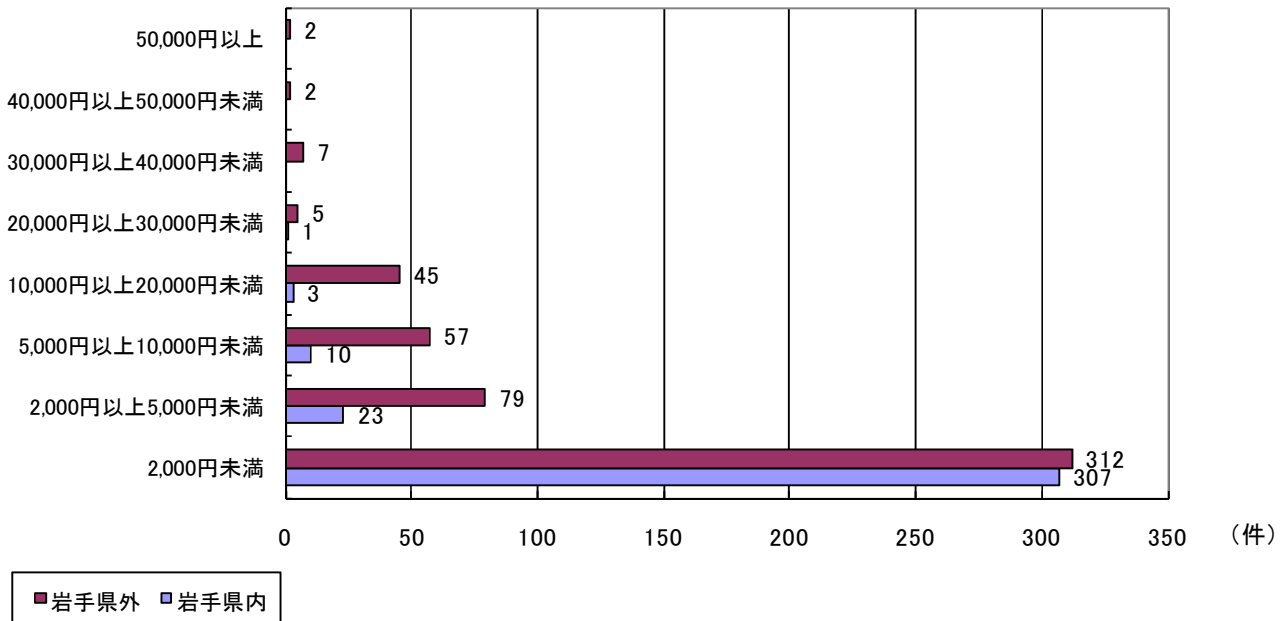


図26 岩手県内／外旅行費用の比較 (岩手県内交通費・件数)

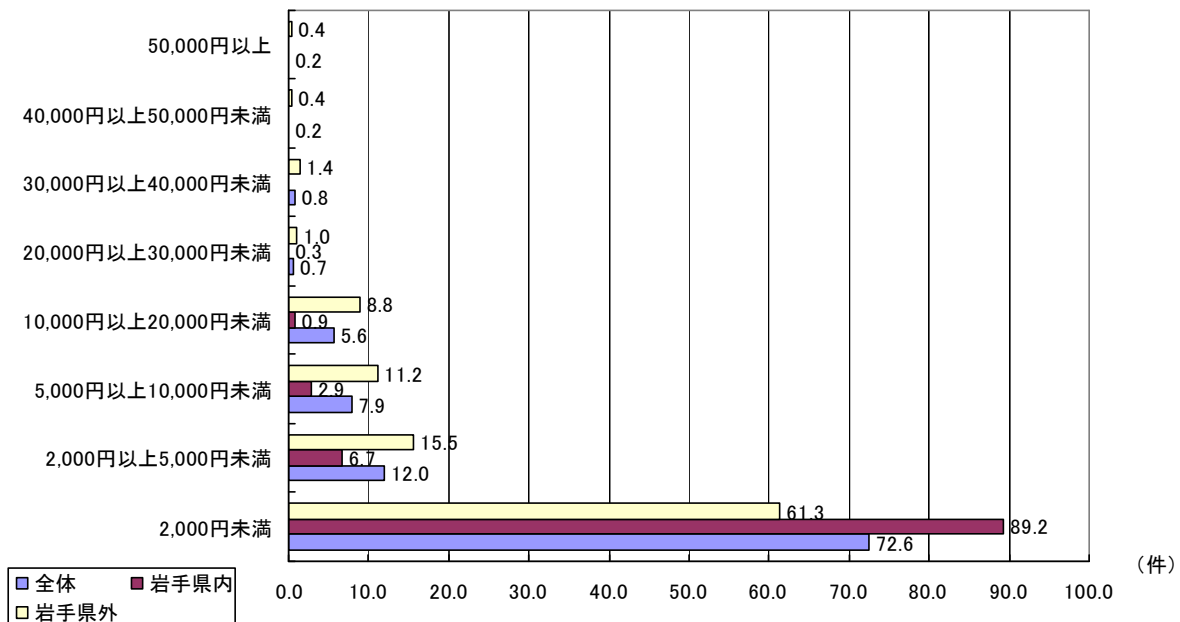


図27 岩手県内／外旅行費用の比較 (岩手県内交通費・比率)

岩手県外の交通費において、1,000円未満の旅行者が全体の98.8%を占めるものの、県外旅行者については10,000円以上20,000円未満にも一つのピーク（全体：17.5%、県外旅行者：10.4%）が来ていることがわかる。

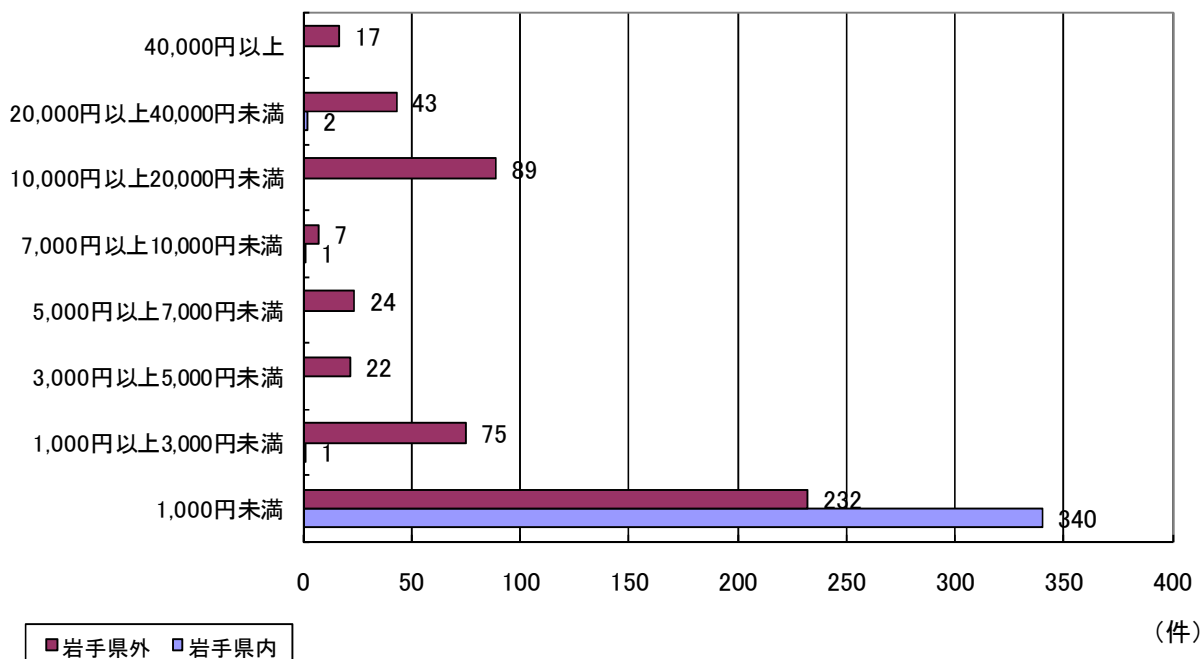


図28 岩手県内／外交通費比較（岩手県外・件数）

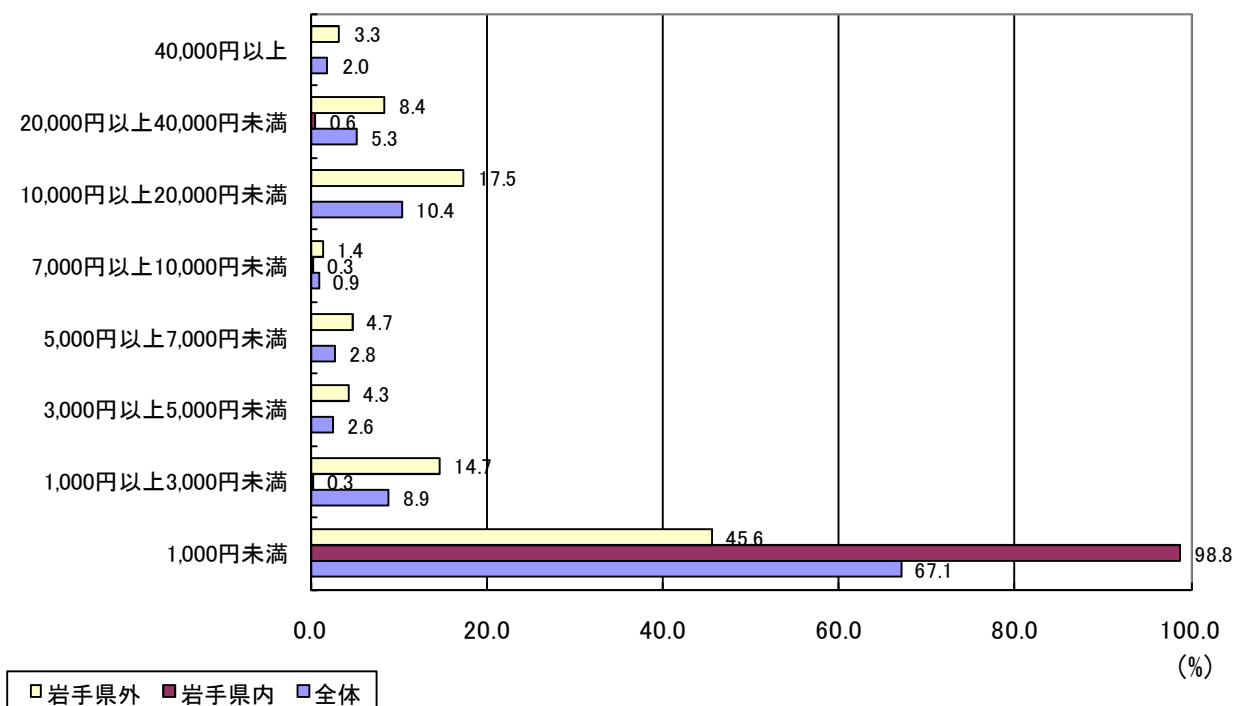


図29 岩手県内／外交通費比較（岩手県外・比率）

本設問より、1人当たりの当県内における宿泊費を集計しグラフ化したものが図30、31である。
 宿泊費を岩手県内/外旅行者別に比較すると、岩手県内旅行者で1,000円未満が95.1%であるの
 対し、県外旅行者では56.0%にとどまっている。これは岩手県内旅行者で日帰りが多いことと関係が
 あるものと思われる。

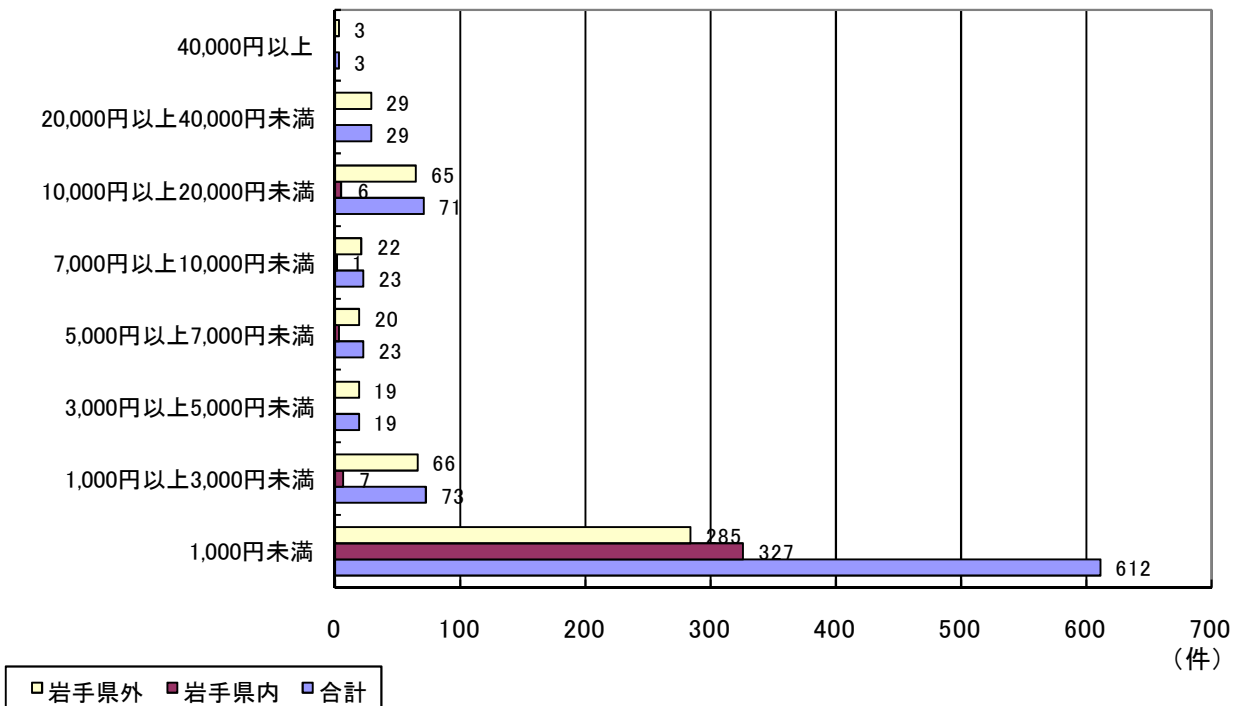


図30 岩手県内/外宿泊費比較 (岩手県外・件数)

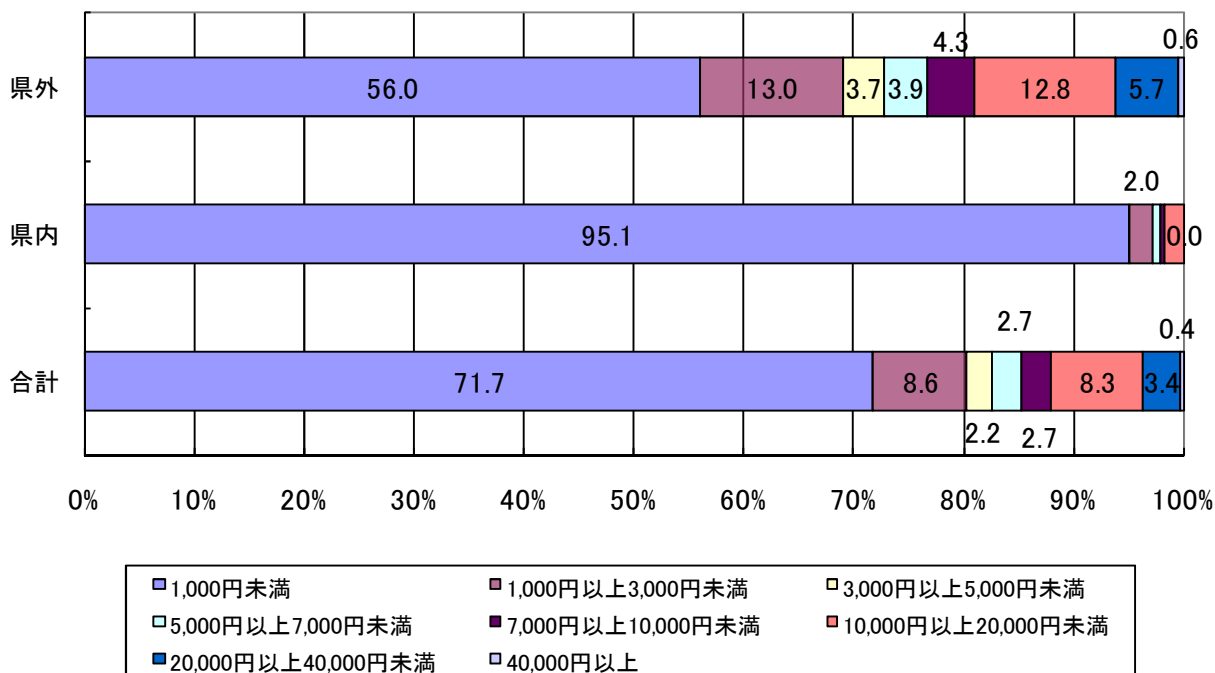


図31 岩手県内/外宿泊費比較 (岩手県外・比率)

本設問より、1人当たりの土産代を集計しグラフ化したのが図32、33である。

この図より、1人当たりの土産代は、「1千円以上～3千円未満」が一番多い(71.2%)が、岩手県外旅行者ではそれ以上の金額を消費している人が55.2%（岩手県内28.8%）と岩手県内旅行者に比べて倍程度多い。

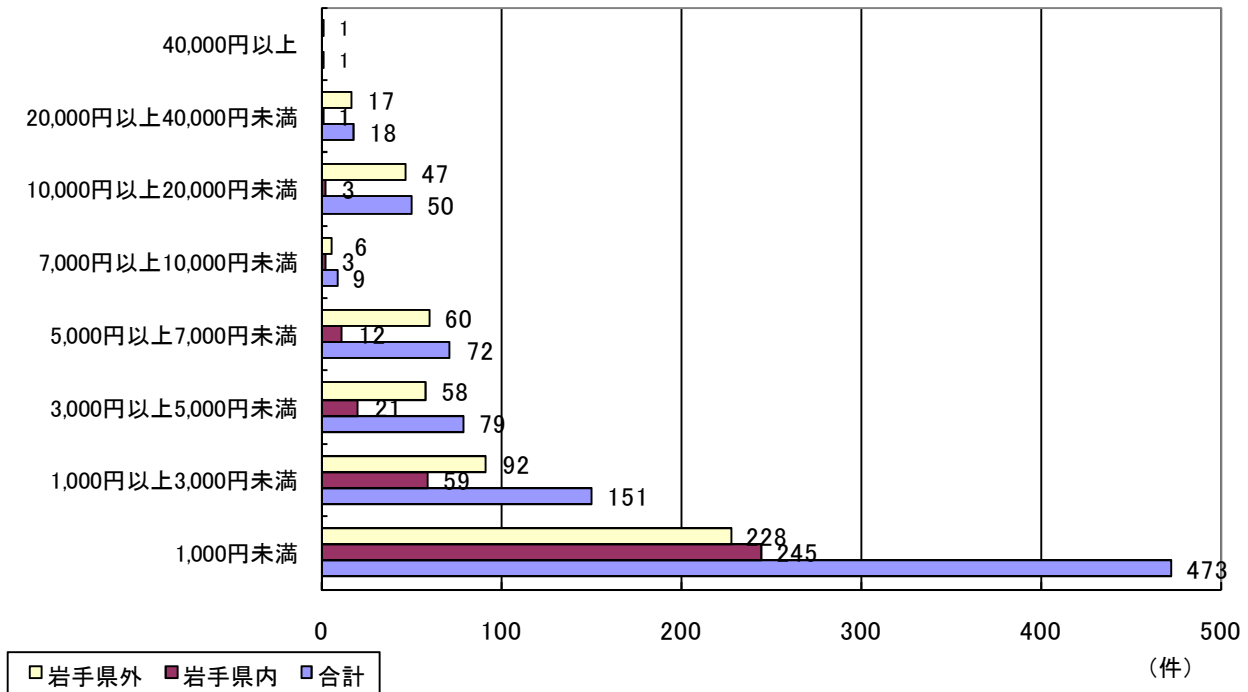


図32 岩手県内／外旅行費用の比較（土産代・件数）

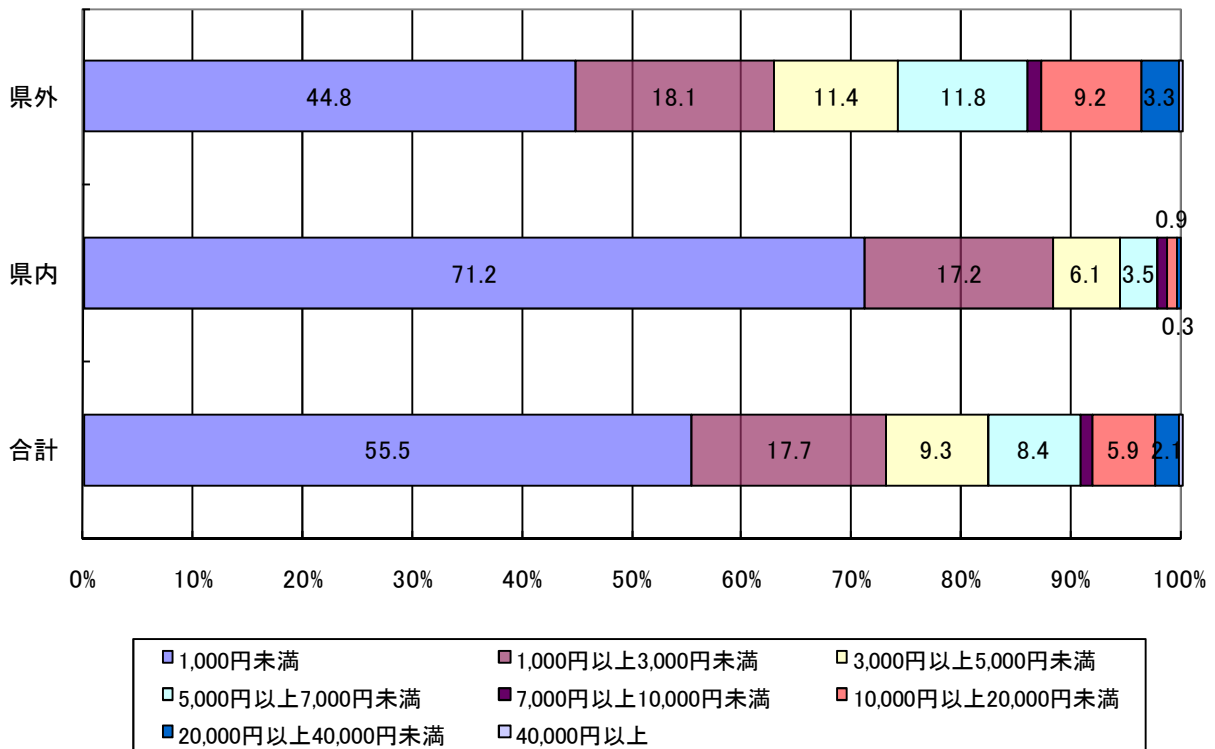


図33 岩手県内／外旅行費用の比較（土産代・比率）

本設問より、1人当たりの飲食費をグラフ化したものが図34、35である。

この図より、1人当たりの飲食費は、「1千円未満」(60.0%)の回答が一番多いが、20,000円以上の消費は岩手県外旅行者が全てを占めている。

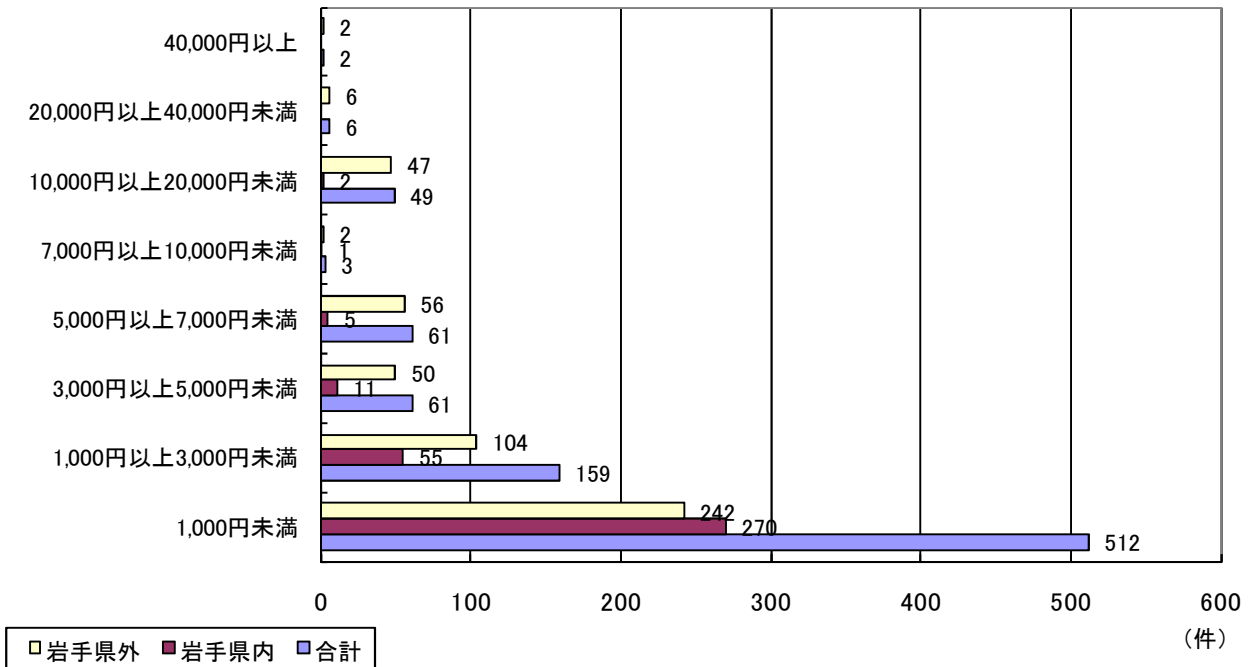


図34 岩手県内／外旅行費用の比較（飲食費・件数）

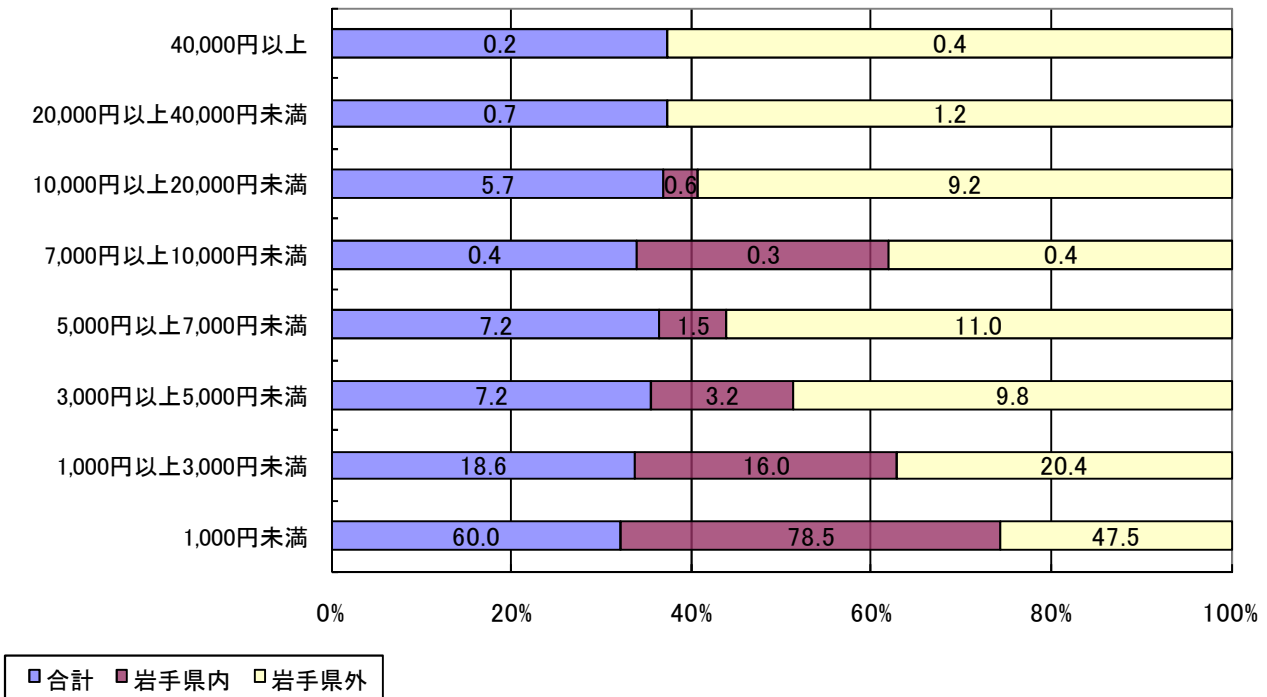


図35 岩手県内／外旅行費用の比較（飲食費・比率）

本設問の結果、1人当たりの入場料を集計しグラフ化したのが図36、37である。

この図より、1人当たりの入場料は岩手県内/外とも1,000円未満が最も多いが、1,000円以上3,000円未満の金額において岩手県外旅行者が76人中67人等と、1,000円以上の費用において大半を占めている。

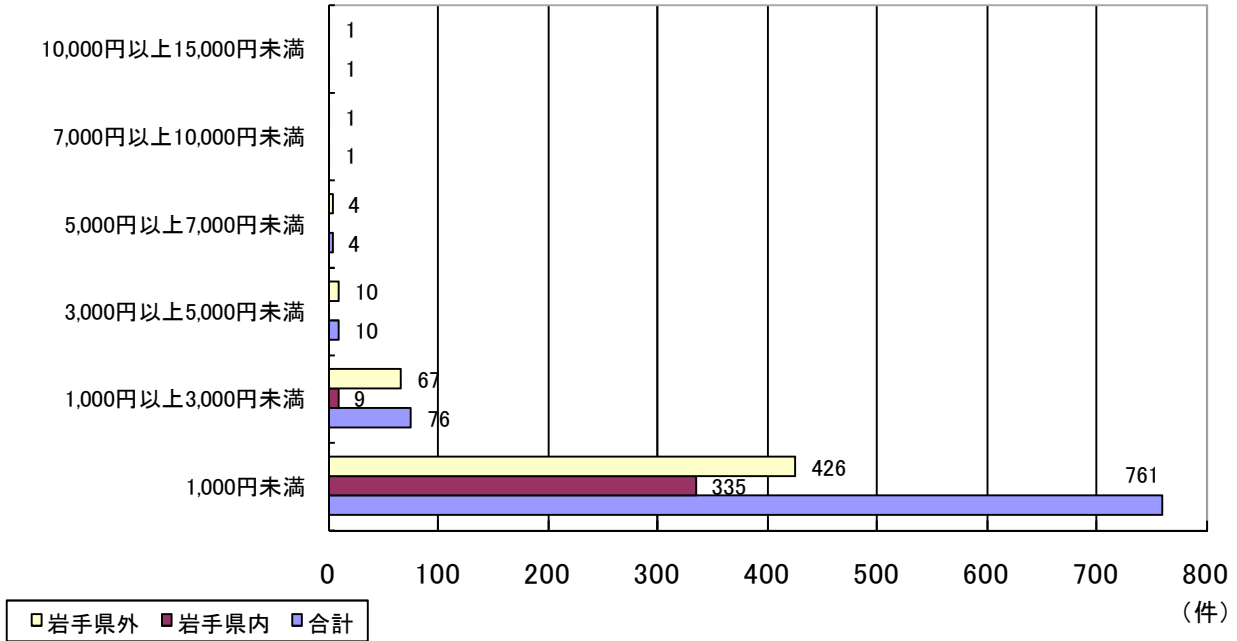


図36 岩手県内/外旅行費用の比較 (入場料・件数)

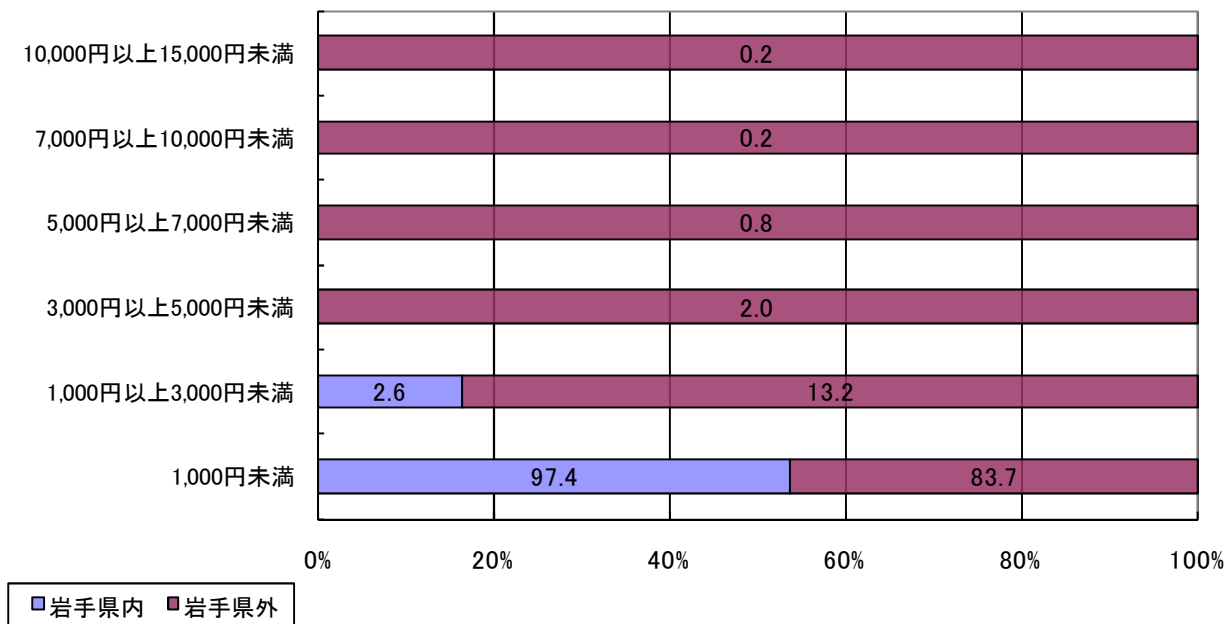


図37 岩手県内/外旅行費用の比較 (入場料・比率)

本設問の結果、1人当たりのその他費用を集計しグラフ化したのが図38、39である。
この図より、1人当たりのその他費用は1,000円未満で98.0%と、その9割以上を占めている。

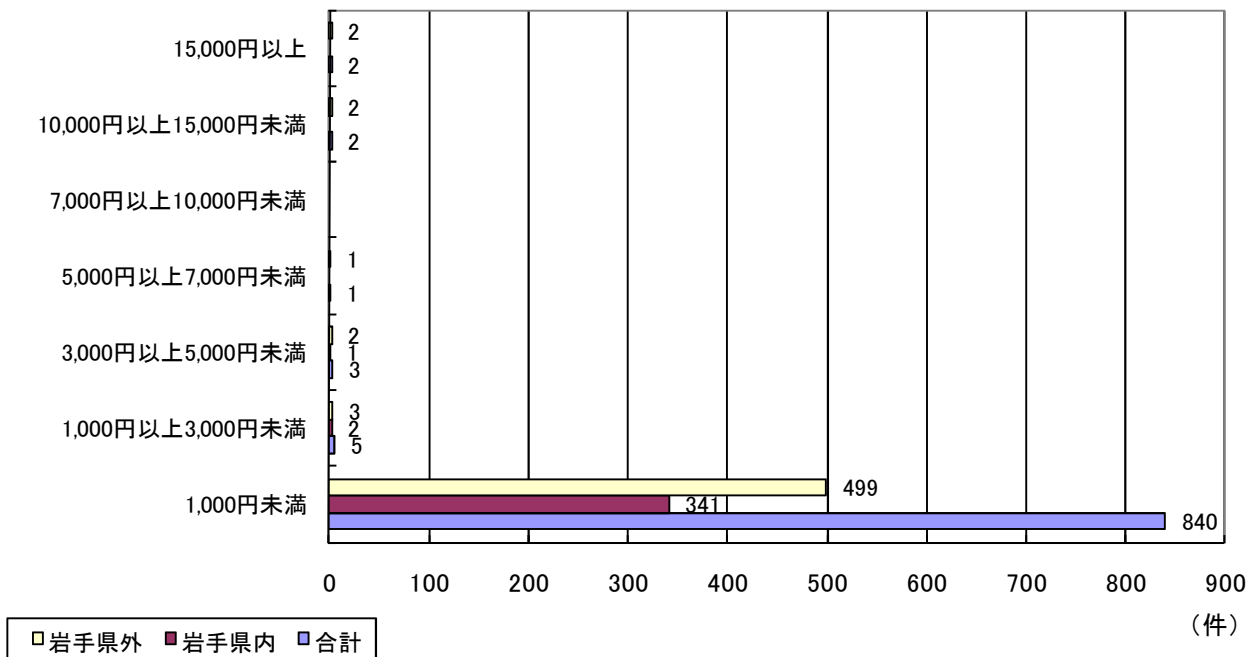


図38 岩手県内／外旅行費用の比較（その他費用・件数）

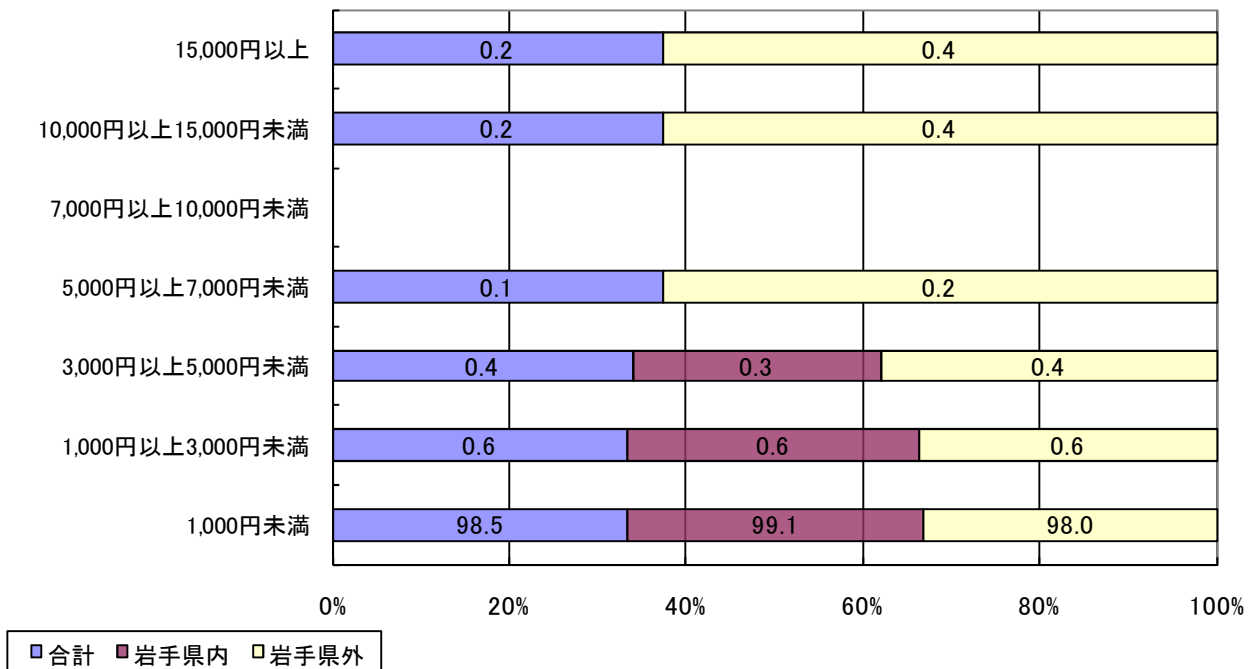


図39 岩手県内／外旅行費用の比較（その他費用・比率）

本設問の結果、1人当たりのパック料金を集計しグラフ化したのが図40、41である。

この図より、1人当たりのパック料金は、岩手県内旅行者の上限がほぼ7,000円未満であり、7,000円以上の利用は多くが県外旅行者で占められる。

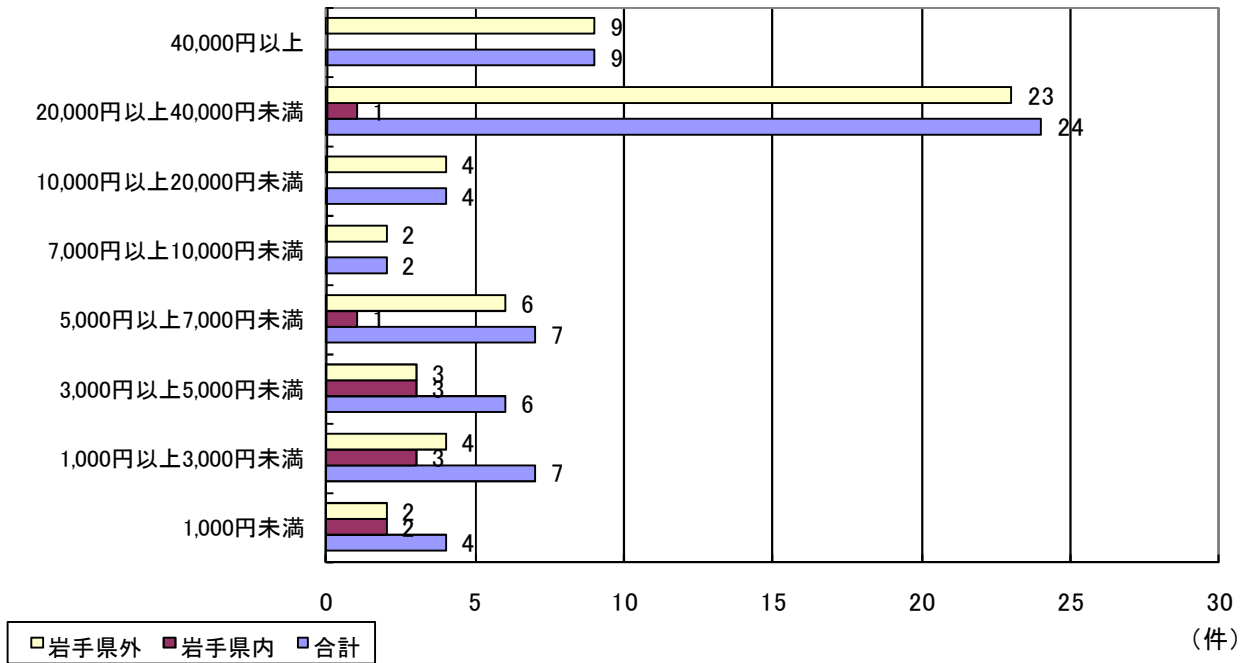


図40 岩手県内／外旅行費用の比較 (パック料金・件数)

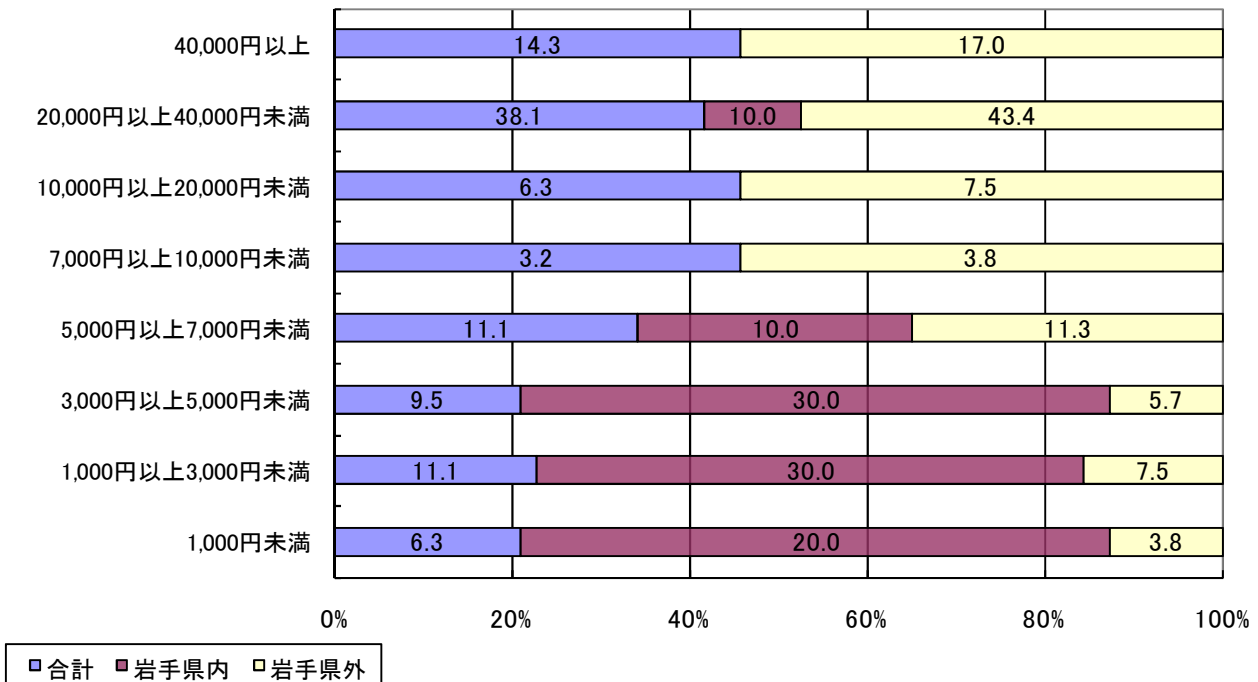


図41 岩手県内／外旅行費用の比較 (パック料金・比率)